

府中市グランドデザイン

～ 府中の本物（まんなか）を感じ、
「楽しみ」「暮らせる」まち～



令和2年10月 府中市

はじめに



「府中の本物（まんなか）を感じ、
「楽しみ」「暮らせる」まち」を目指す

魅力のあるまちとはどのようなまちを思い描くでしょうか。若者の遊びがたくさんあるまち、おしゃれな店が建ち並ぶまち、こどもを育てやすいまち、働きやすいまち、老後も安心して暮らせるまちなど、魅力のあるまちは世代によって捉え方は様々と思います。その中でも一番大切なことは、市民の方がいつまでも好きであり続けるまちが魅力あるまちではないでしょうか。

府中市は、古代「備後国」の行政府である「備後国府」が置かれたことにより備後地域の中心部としての役割を担ったとされています。その後の時代の移り変わりの中でも、備後地域の中心的な役割は存在し、そうした背景の中で造られたまちの面影が現在の中心市街地の中にも見受けられます。私たちは、今の若い世代や子どもたちに、府中のまちは「単なる古いまち」ではなく、古代からの歴史に裏付けされた「昔からの伝統が残された歴史あるまち」であることを伝えていく必要があると強く感じています。そうした歴史あるまちに磨きをかけつつ元気を取り戻すためには、「まちなか」に賑わいを生むことが必要となります。「まちなか」が活気を取り戻し賑わいを取り戻すことで、府中市全体が元気になると信じています。

グランドデザインには、20年～30年後どのようなまちになっていたらよいか、「市民の皆様の目線」と「訪れる人々の目線」で、目指すまちの将来イメージを描き、達成するための方向性を示しています。市民の皆様をはじめ、企業や関係団体と一緒に、目指すまちの将来イメージに向けて『府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち』を造っていきます。

最後になりますが、グランドデザインの策定にあたり、ご尽力賜りました「府中市グランドデザイン策定協議会」委員の皆様をはじめ、ワークショップにご参加いただきました皆様、貴重なご意見をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和2年 10月

府中市長 小野 申人

目 次

1. グランドデザインとは	4
1. 1 グランドデザインの背景と目的	4
1. 2 目的から導く4つのキーワード	6
1. 3 グランドデザインが対象とする区域	7
1. 4 グランドデザインで展開される『つながり』	8
1. 5 目標年次	10
2. 中心市街地・生活中心街の特性	12
3. 中心市街地・生活中心街の将来像	18
3. 1 中心市街地・生活中心街の将来像	18
3. 2 目指すまちの姿	19
4. 将来像の実現に向けた方針と取組	26
4. 1 エリア設定	26
4. 2 エリア別の戦略目標と取組方針	27
5. 将来像の実現に向けたマネジメント	40
5. 1 マネジメントシステム	40
5. 2 検証・見直し	48
■参考資料	
参考1 統計からみる府中市	50
参考2 これまでの都市再生の総括	52
参考3 策定の経緯	58
参考4 府中市グランドデザイン策定協議会要綱	59
参考5 策定体制	60
参考6 用語解説	61

1. グランドデザインとは

1. 1 グランドデザインの背景と目的

府中市在住の
ある親子の会話



息子(高校生)「年配の人は、昔は良かった、まちは賑わっていたというけど、本当にそうなの？」



父(50代)「わしが子どもの頃は、まちなかにもっと子ども達があふれていて、駅前や商店街にもたくさんの店があって人がたくさん行きかっていたなあ。」



母(40代)「そうね、今よりも働く場所が多くて、夕方は仕事帰りの人で賑わっていたし、休日にも人通りが多かったわ。」



娘(20代)「じゃあ、グランドデザインで、昔のようなまちを目指そうっていう内容なの？」



父(50代)「そうじゃないよ。これまでの府中市の魅力を大切にしながら、これからの時代は、どんなまちを目指せばいいか、グランドデザインで描いていこうってことだよ。」

■グランドデザインの背景

府中市ではこの10年ほど、中心市街地活性化の取組として、道の駅や府中学園等の建設や歩いて暮らせるまちづくりに関連した道路、広場などの整備に取り組んできました。これらの取組の効果として、商店街等では移住者による空き家・空き店舗等を活用した新たな店舗等へのリノベーションや地域住民が中心となった官民連携の取組による石州街道・出口地区の歴史的な街並みと調和した修景が進んでおり、次の時代に向けて、まちが変わるための“新芽”が芽生えはじめています。

これらのまちづくり活動の新芽を一過性のものに終わらせることなく、まち全体に展開し、成長させていくことが重要です。

また、グランドデザインは、ヒト・モノ・情報等を周辺部から中心市街地に集積し、活性化させるための役割と集積した活力を効果的にまち全体へ展開させ、まちの全体の成長につなげる役割を併せ持つ計画です。

一方で目まぐるしい社会の変化やそれにとまなう課題への対応に追われる中、府中市が持つ本来の価値や魅力が置き去りにされてきました。人口減少等、時代の転換期にある今だからこそ発想を変え、これまでのように中心市街地を活性化させるなどといった社会課題を解決するだけではなく、たとえ人口が減少しても、何年経っても変わらない府中市の個性・価値・強みを重視した目指すべき将来像とその実現方策を描くグランドデザインを策定することとしました。

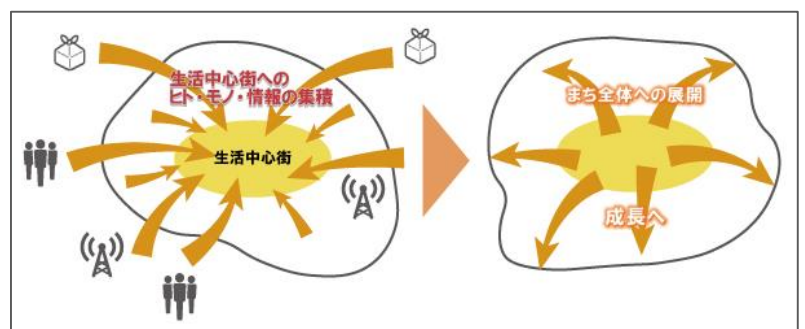


図 グランドデザインの機能発揮のイメージ

■グランドデザインの目的

グランドデザインでは、府中市が持つ魅力、歴史的・産業的価値を再認識し、住んでいる場所への愛着や自負心を育み、まちづくりに参加する機運を高めます。

また、多くの活動や取組により魅力を増した府中市を市外に向けてPRし、人やビジネスを呼び込むことで“来てみたい”“住んでみたい”と思ってもらえるまちを目指し、市民、企業、まちづくり団体と行政、さらには府中市に関係する人々が目指すべき将来像に向かって、方向性を共有し、それぞれの役割を担いながら着実に取組を進めていくことを目的とします。

具体的には、市全体を支える中心市街地・生活中心街において、市街地周辺部や隣接都市等とのつながりを意識しつつ、概ね20～30年後の将来に人々が楽しく過ごしている様子をイメージし、その目指すまちの将来像に向かって、それぞれの場所でどのような取組を行えば良いのかを示しています。

■府中市グランドデザインの構成（グランドデザインの見方）

グランドデザインでは、府中市全域から見た市街地周辺部とのつながりや隣接都市等とのつながりを意識しつつ、概ね20～30年後の中心市街地・生活中心街の将来像を描きます。

その将来における市民にとっての過ごし方や、訪れる人々・受け入れる人々の過ごし方といった2つの視点から目指すまちの姿を具体的にイメージし、そのイメージと現状のギャップや強み（今後活かせるような要素）を浮き彫りにした上で、まちづくりの戦略目標や取組方針を明らかにしています。最後に、官民によるマネジメントの仕組みや考え方を整理し、まちの将来像の実現に向かって、着実に取組を進めていく構成としています。

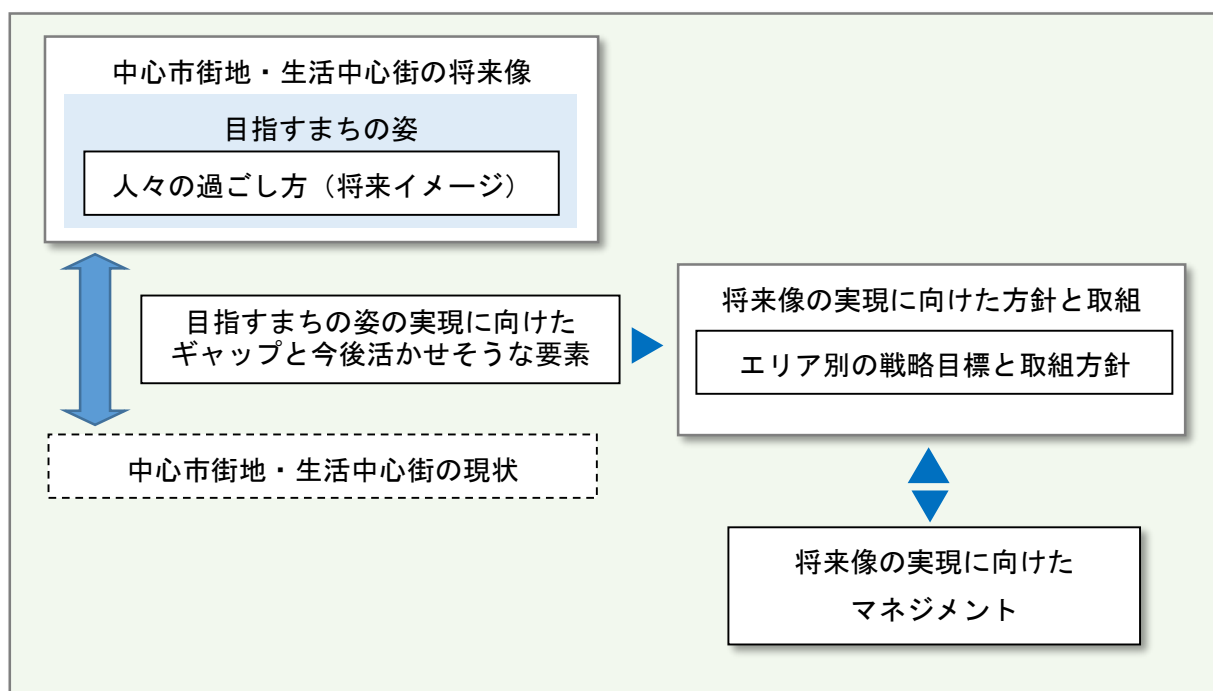


図 グランドデザインの構成（グランドデザインの見方）

1. 2 目的から導く4つのキーワード

本計画の目的を踏まえ、以下の4つのキーワードを念頭に置いた将来像を描きます。

やっぱり大好き、府中 ～シビックプライドの醸成～

- ・府中市民が、府中市の魅力、歴史的・産業的な価値を再発見・再認識することで、たくさんの自慢できるところがあるという府中市に対する誇りや、府中市をより良くしていこうとする当事者意識・自負心を育むことで、府中市を一旦出ても、また戻ってきたくする意識の醸成を目指します。

府中のイイところ。売り出し中！ ～シティセールス～

- ・市民の方々が楽しく快適に暮らせるまちであることを発信することはもちろん、府中市が持つ多彩な産業や歴史あるまちなみなど、本来ある魅力の発掘と新たな価値を生み出すことで、来街者を呼び込み、移住を促進し、ビジネスを呼び込むシティセールスにつなげていくことを目指します。

手をつなぎ、知恵を寄せ合う官民の輪 ～官民連携～

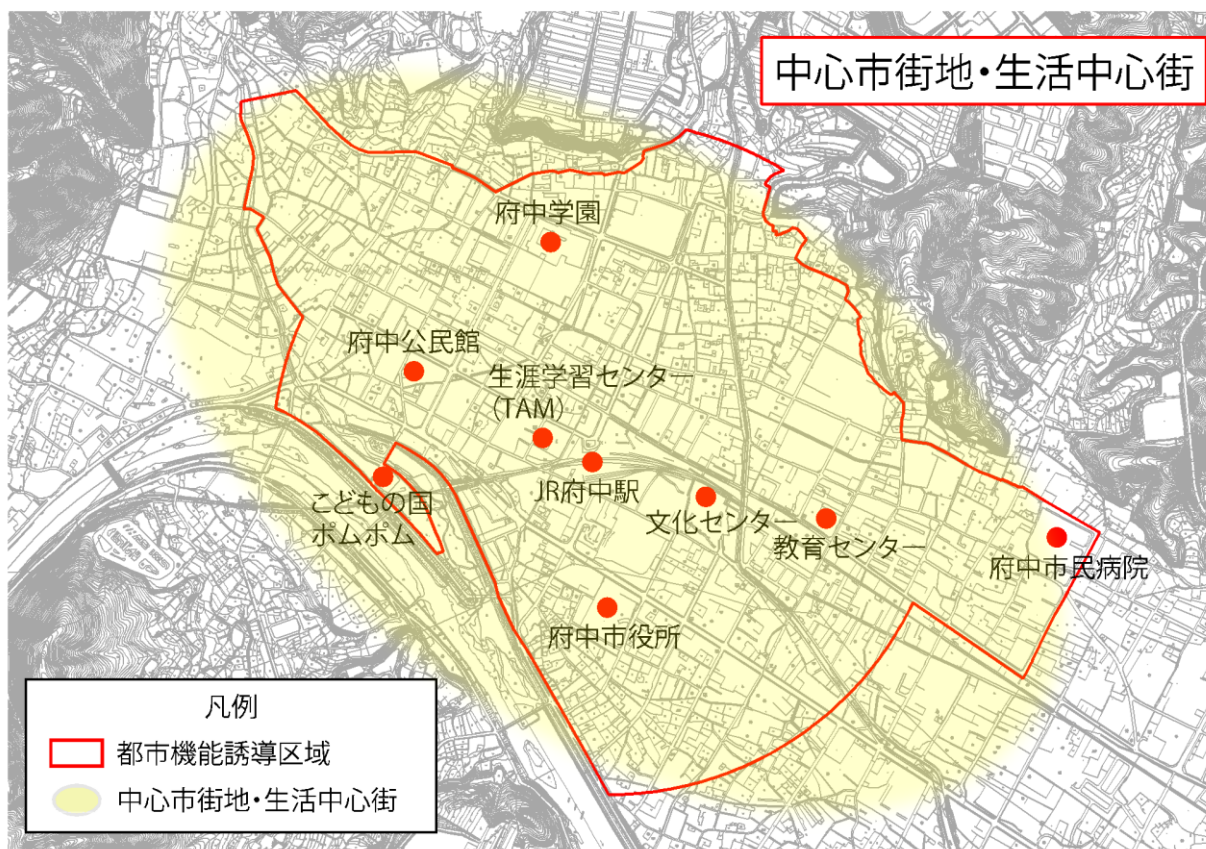
- ・民間の自由な発想や取組を積極的に行政が支えることで、まちの課題解決や中心市街地での新たな価値を生み出し、地域の価値を向上します。官民が一体となり多様な取組を展開できる組織づくりに加え、ハード事業・ソフト事業を総合的・戦略的に展開することを目指します。

来て良し！住んで良し！の府中 ～新たな価値の創造～

- ・誰もが快適に暮らせる魅力あるコンパクトなまちづくりを進めることで、職住遊近接で仕事と趣味などのプライベートを両立させるとともに、幸せや豊かさを感じ、誇りを持ち、将来にわたって暮らしたいと思えるまちを目指します。また、市外の人にも魅力を感じてもらい、本市に来てもらうとともに、“住んでみたい”と思えるまちを目指します。
- ・市民と来街者、若い世代と高齢者など、多世代が交流する活力のあるまちづくりを展開することを目指します。

1. 3 グランドデザインが対象とする区域

本グランドデザインは、これまでの市街地形成の過程や都市機能の集積状況等を踏まえ、全市民が本市の社会・経済の中心として共通認識し、全市域に波及的効果をもたらす価値の高い区域を中心市街地・生活中心街と呼び、以下のとおり対象区域とします。



※中心市街地・生活中心街は、立地適正化計画の「都市機能誘導区域」と概ね同じ区域ですが、その周辺の自然等、魅力的なまちなかの資源を含めた範囲（黄色網掛け部分）も対象区域に含みます。

1. 4 グランドデザインで展開される『つながり』

中心市街地・生活中心街は、全市域に波及的効果をもたらす価値の高い区域であることから、府中市内や周辺都市等へ広域的な「つながり」を持たせることが重要です。

「つながり」には、大きく「人の移動」によるつながり、「情報」によるつながりという2つのつながりが考えられます。

■「人の移動」によるつながり

道路・公共交通を介した「人の移動」によるつながりを示します。

【府中市内で見えるつながり】

- ・生活の下支えとなり暮らしを楽しむ中心部と周辺部とのつながり

【広域的に見るつながり】

- ・周辺都市、全国、世界とのつながり
- ・関係人口によるつながり
- ・広域アクセスによる産業のつながり

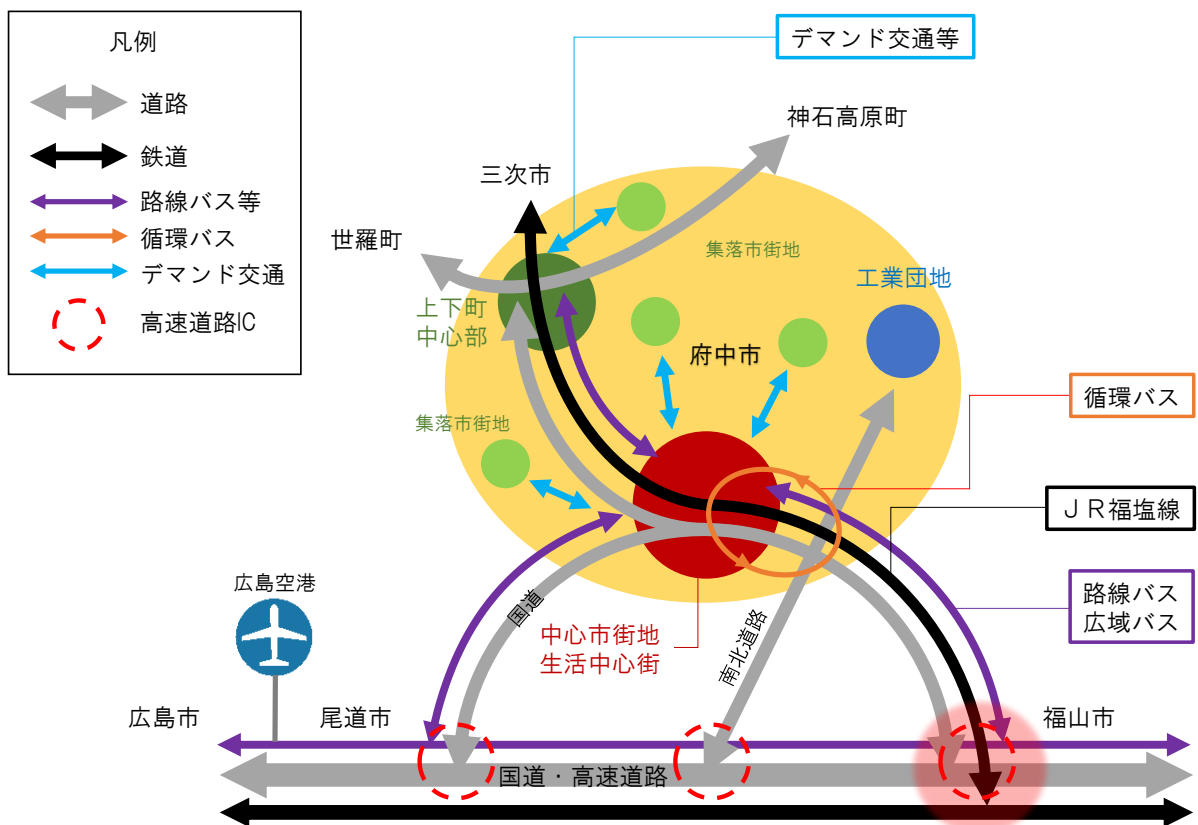


図 道路・公共交通等による市内・広域的「つながり」の構造イメージ

【出典】府中市立地適正化計画(H29.3)をもとに加工

息子(高校生)

府中市から福山市までJRで約40分、尾道松江線の尾道北ICまで車で約15分、広島空港も車で約50分で行けるんだね。

母(40代)

そうよ、府中市で日常生活を送るのは結構便利なのよ。

父(50代)

そうだな、これからもっと便利で快適になるように道路などのインフラ整備が進むといいな。

■「情報」によるつながり

ウィズコロナ社会においては、大都市の喧騒から離れて、自然・文化をゆったりと楽しみながら働く暮らし方が求められる社会にシフトしていくものと想定されます。そのため、ICT活用による情報発信やシティープロモーション等を行うことで、府中市内だけでなく、周辺都市、全国、世界へと「情報」によりつながる社会を目指し、物理的な移動を伴わない「情報」による交流や、これまでは想定されなかったビジネスの創出・発展、新たな生活スタイルへの転換等も想定されます。

【府中市内で見えるつながり】

- ・暮らしが便利で快適になる
- 中心部と周辺部とのつながり

【広域的に見るつながり】

- ・周辺都市、全国、世界とのつながり
- ・物理的な移動を伴わないつながり

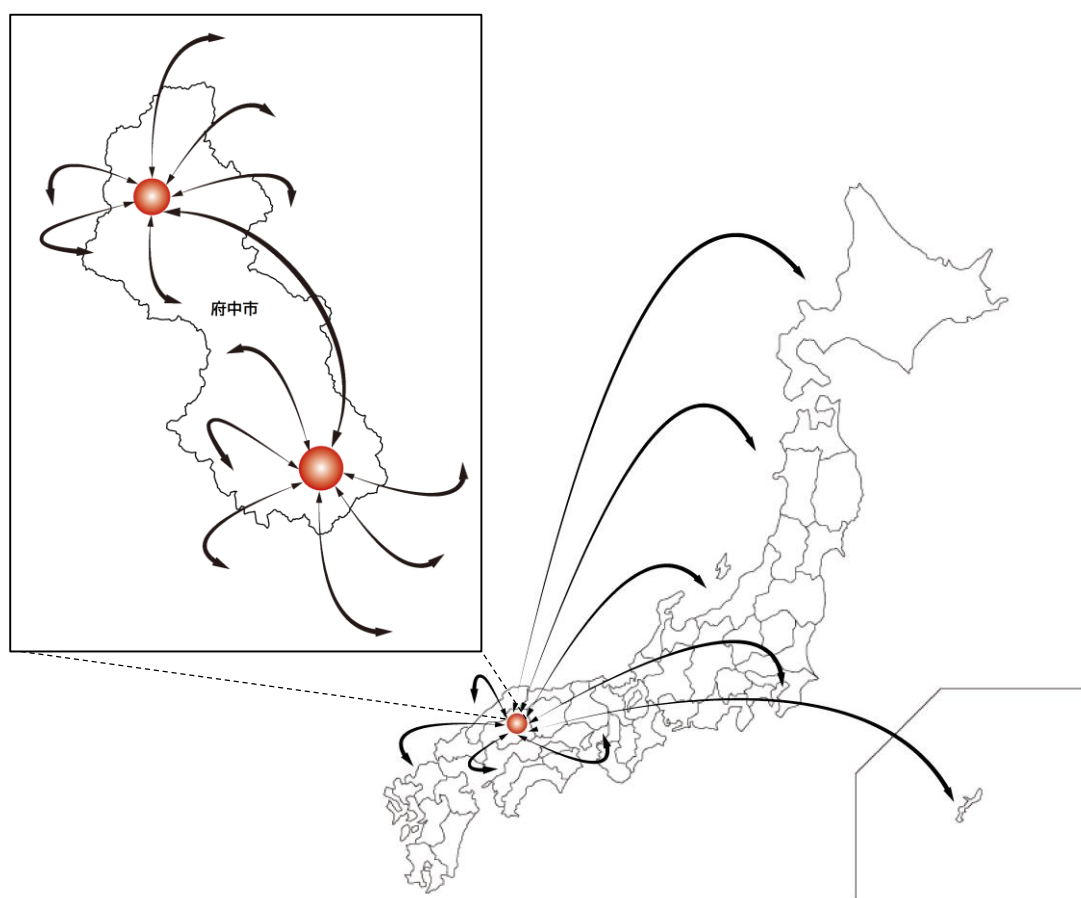


図 情報による市内・広域的「つながり」の構造イメージ

〔「人の移動」及び「情報」のつながりによるまちなか機能の享受に向けて〕

中心市街地・生活中心街に住んでいる人だけが、日常生活の中で恩恵を享受するのではなく、市内のどこに住んでいる人も、市外から府中市に関わる人々も、まちなかの機能を使い、楽しんで過ごす、そんな『つながり』を作っていきます。

1. 5 目標年次

グランドデザインは、概ね 20～30 年後の中心市街地・生活中心街の姿を描きます。下表に示す関連計画と連動して取組み、観光交流や産業振興、市民の暮らしなどの個別テーマは、関連計画に位置づけて取組みます。関連計画は、社会経済情勢の変化に対応しつつ、グランドデザインの内容を踏まえ、適宜、改定します。

■関連計画の目標期間

			H27 2015			R2 2020			R7 2025			R12 2030			R17 2035			R22 2040			R32 2050		
府中市総合計画			第4次			第5次						計画の改定											
府中市グランドデザイン																							
中心市街地活性化基本計画			第2期																				
都市再生整備計画			第2期			第3期		第4期		実現に向けた整備													
府中市都市計画マスタープラン															計画の改定								
府中市立地適正化計画								防災指針等見直し										計画の改定					
府中市産業振興ビジョン															計画の改定								
府中市観光振興ビジョン															計画の改定								



息子(高校生)

「人の移動」によるつながりと「情報」によるつながりのイメージを読んだけど、ヒト・モノ・情報が集積して便利になるし、生活中心街・中心市街地だけでなく府中市全体がよくなっていくんだね。

そうだね、中心市街地・生活中心街が活性化していけば、府中市全体を支えられるほど、波及してよくなるってことだね。



母(40代)



父(50代)

府中市民だけでなく、来街者にとっても効果が大きいことだからなあ。ただ、目標年次を見ても、中長期的に取り組んでいくことが大事であることがわかるな。他の計画と連携しながらやっていかないといけないんだな。

2. 中心市街地・生活中心街の特性



息子(高校生)「府中は、歴史あるまちだと聞けど、住んでいても良く分からないんだよね。」



父(50代) 「じゃあ、府中のまちなかの成り立ちを学んでみよう。」

■古代の都市に由来するまちづくり

「府中」の始まりは、古代に都と九州の大宰府(福岡県)を結ぶ主要幹線道路である古代山陽道が設置され、続けて「備後国」(現在の広島県東部)の行政府である「備後国府」が置かれたことに由来します。府中市街地は備後国内で歴史上初めての地方都市となり、平安時代にいたるまでの約500年間にわたり備後地域の政治・経済・文化の中心地になりました。

「備後国府」が国の役所として、どこに・どのように営まれたのかという課題に対する長年の調査・研究の結果、「備後国府」の痕跡が、元町や府中町の市街地北側で発見されました。中心部の建物施設の向きは、東西南北に合わせて造営されていたことが分かっています。元町の一帯には、現在も、周囲とは異なる東西南北に方位をとる町割りが見られますが、古代の都市計画が引き継がれてきた結果といえます。さらに、生涯学習センター(TAM)と文化センターの南側にある“であいの広場”と“はじまりの広場”では、「古代山陽道」も確認されました。この発見により、現在のJR府中駅南側の市道が、市街地に残された「古代山陽道」の痕跡であることが判明しました。現在見られる碁盤の目のようなまちなみは、この「古代山陽道」を基準として形成された土地の区画(条里地割)が、後の時代にも受け継がれたものと考えられています。

このように、現在の府中市街地は、古代には、国司となって都からそれぞれの国に赴く貴族たち、遣唐使や海外からの使節、都に税や貢物を運ぶ庶民の一行ほか、多くの人たちが立ち寄り行き交う場所でした。10世紀以降、律令制度が形骸化するとともに、国府は次第に国の役所としての役割は衰退します。鎌倉時代には、「国衙」と呼ばれる役所の施設や所有する土地は残り、年貢の徴収などの実務に地元の役人が当たっていましたが、次第に武家の勢力に支配されるよ



古代備後国と古代山陽道



はじまりの広場付近から見た備後国府
(画：早川和子)

うになり、わずかに残った役所機能も消滅していきます。鎌倉時代の武家の地方支配拠点である「守護所」の位置は特定されていませんが、14～15 世紀の資料に「備後符中」や「備後国府城」の記録が見られることから、府中市街地が鎌倉時代以降もしばらくは備後の中心的拠点「府中」として存在し、市場等が営まれて人や物資・情報が集積する場所としてあり続けたという歴史的背景によって、「府中」という現在の地名となりました。

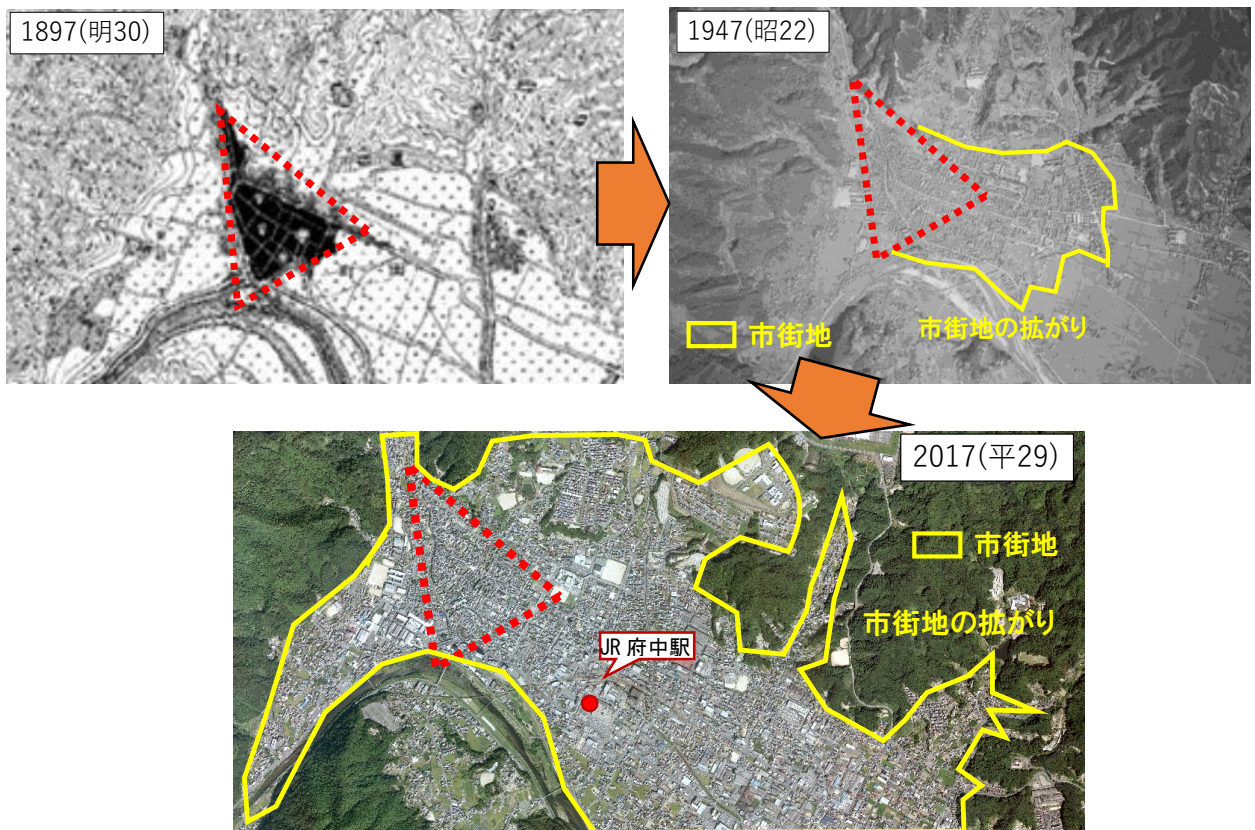
■近世以降のものづくりのまちの進展

江戸時代になると、瀬戸内側と日本海側を結ぶ主要街道である石州街道（雲石街道）の宿駅が設けられ、出口町から府中町の一帯は、街道沿いの宿場としても賑わい発展しました。

中世から物資の集散地であり、周辺の綿やたばこ・藍・木材・米や大豆や塩などの農産物が集まりやすい環境であったこと、集まった産物を利用した加工が早くから行われていたことから、備後絣などの綿織物、備後葉と呼ばれたタバコ製造、長持ちや指物などの木工、府中味噌などの醸造業などが家内工業として盛んに行われていきました。

近代に入っても、府中市街地は芦田郡の中心地であり、明治 11 年（1878）に安那・品治・芦田 3 郡の郡役所が置かれました。明治 23 年（1890）には、新たに郡会が設置されて郡が自治体としての性格を持つようになるとともに、全国で郡の整理統合が進められた結果、明治 31 年（1898）に芦田郡と品治郡が合併し芦品郡が誕生しました。明治 36 年（1903）新しい郡役所は、当時郡内で最も繁華な府中町の通りの東端に建てられ、以後、府中近代化の拠点、近代府中の新市街地形成の中核になっていきます。

このほかにも、明治 31 年（1898）には府中葉煙草専売所の設置、明治 32 年（1899）の備後銀



市街地拡大の変遷

【出典】 国土地理院：地形図・地勢図図歴、航空写真



石州街道と石見銀山街道



大正3年(1914)の両備軽便鉄道開通記念祝賀行事の府中町駅前

写真転載：「目で見る福山・府中の100年」郷土出版社 1997

行の設立、大正3年(1914)の両備軽便鉄道府中町駅の開業、女学校の開校のほか各種産業の工場建設が行われるなど、府中の近代化が着々と進められていきました。

また、産業面でもこれに呼応するように、江戸時代には家内工業として行われていた伝統産業が、電力の確保やそれに伴う工業化、鉄道整備による素材や製品の運搬機能の拡充などにより、近代的な発展を遂げていったほか、新たに金属工業なども加わります。

現在、府中市の主要な地場産業には、衣服縫製や桐箱、味噌など江戸時代の伝統から発展した特産品のほか、機械・金属・化学・ゴム製品なども存在しています。さらに、高級婚礼家具・非鉄ダイカスト製品・ラジコンヘリコプター・など特色を持った工業製品もあります。

市内の企業のうち63社(2020年度現在)は100年企業で、大半が市街地に存在します。これらの企業は、古くは江戸時代末から、明治維新や近代・現代に至る激動の時代を、自らの知恵と技術を結集し、企業の魅力に磨きをかけることで乗り越えてきました。

古代、「備後国府」の様々な工房におけるものづくりが起点となり、今日の多種多様な“企業のまち”“ものづくりのまち”が形成されてきたといえます。



府中家具



府中味噌



ワーキングウェア



ダイカスト製品



スピングルムーブ



ラジコンヘリコプター



旋盤用パワーチャック

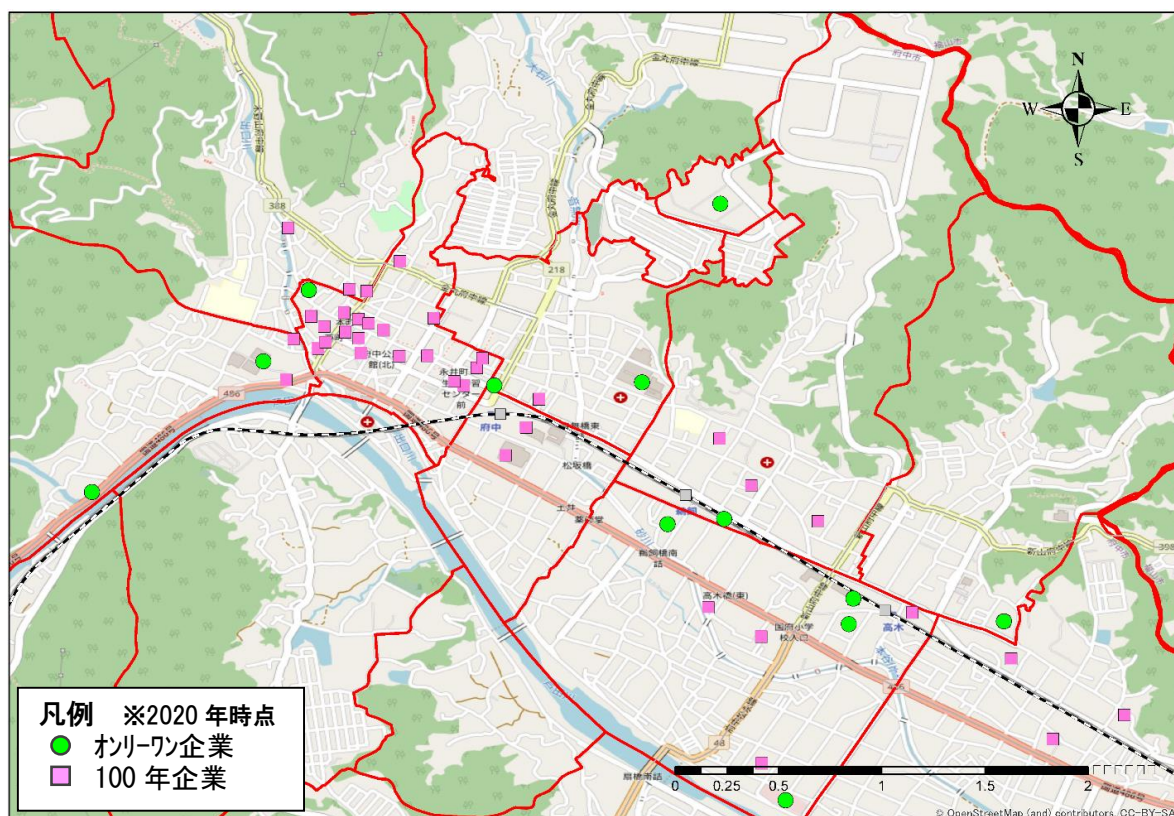


図 オンリーワン・ナンバーワンの製品・技術を持つ市街地に位置する企業

(資料) 広島県 HP「広島県の「ものづくり」～オンリーワン・ナンバーワン企業等紹介」、「府中商工会議所ハンドレットクラブ登録企業名簿」より ESRI 社の ArcGIS を用いて作成

■近世以降のまちの形成と近年のまちなかの変化

江戸時代、出口町や府中町の一部で街道に沿った宿場町としてまちなみを形成していた府中の町は、明治以降の近代化の進展の中で、郡役所や両備軽便鉄道府中町駅などを中核として東に拡張されていきました。それは、時代ごとの地図を見るとよく分かります。その結果、府中の市街地には、近世から近代さらに現代にわたり、各時代の建築物や街並みが連続し、職と住が接近したレトロでノスタルジックな景観が残されています。

なかでも、明治5年(1873)石州街道沿いに創業して以来、犬養毅、岸信介といった総理大臣経験者をはじめとした著名な文人や政治家も利用し備後を代表する格式高い老舗割烹旅館として多くの人に親しまれてきました「恋しき」でしたが、平成2年(1990)、惜しまれつつ廃業しました。また、明治以来の歴史を刻んだ日本たばこ産業株式会社府中工場も平成16年(2004)に閉鎖されるなど、まちなかの急速な空洞化が懸念されてきました。

「恋しき」は、平成17年(2005)以降、地元有志により株式会社恋しきとして設立され、国の登録文化財、観光商業の複合施設として建物や庭園の保存・活用が取り組まれています。日本たばこ産業株式会社府中工場跡地は、平成20年(2008)に市立の小中一貫校となる「府中学園」が開校し、府中市の新たな教育の拠点施設となりました。

さらに、地域と連携した出口地区における旧石州街道の修景整備事業のほか、「お祭り広場」や「府中市地域交流センター」、芦田川河川敷近くに「府中市こどもの国」、JR 府中町駅周辺に「府中市生涯学習センター」や「道の駅びんご府中」が整備されるなど、まちなかで人が活動し、子どもたちの声が聞こえる賑わいのあるまちづくりが行なわれています。



娘(20代)「私、通っていた学校が統合されて、府中学園に通うことになったんだよね。小さい頃は、こどもの国でよく遊んだよ、あの辺りは自然もたくさんあって、子ども連れの家族や小学生とかに人気だよ。」



父(50代)「石州街道は昔よりまちなみがきれいになったな。お店は少なくなったけど、通り沿いの家はきれいに整ったな。お祭り通りはすごく便利になったよ。」



母(40代)「わたしは、大型の商業施設辺りがもう少し便利になると助かるわ。あと、図書館には広い駐車場があれば便利かもね。」



父(50代)「そうだね、まちなかが変わってくると、もっと楽しく住みやすいまちになるんじゃないかな。それから、市街地の拡大とともに、まちの産業も発展していった歴史は、産業・暮らしを変えようという当時の人たちの強い想いと精力的な活動があってこそだったと思うんだ。だからお前もこうしたい、変えていきたいという想いを持ったら、このまちを変えていける可能性は広がると思うよ。」

■価値の創出に向けた地区の考え方

中心市街地・生活中心街の成り立ち・特性を踏まえて、「出口地区～本町商店街周辺地区」や、「はじまりの広場～備後国府跡周辺地区」では、これまでの歴史・文化的価値を大事にしつつ、将来的にもそれらを活かしながら価値を高めていく地区になります。

一方で、「府中駅周辺地区」や「こどもの国～芦田川河川敷周辺地区」では、官民による連携のもと、日常生活において利便性が高く、魅力的で新しい価値を創出する地区になります。

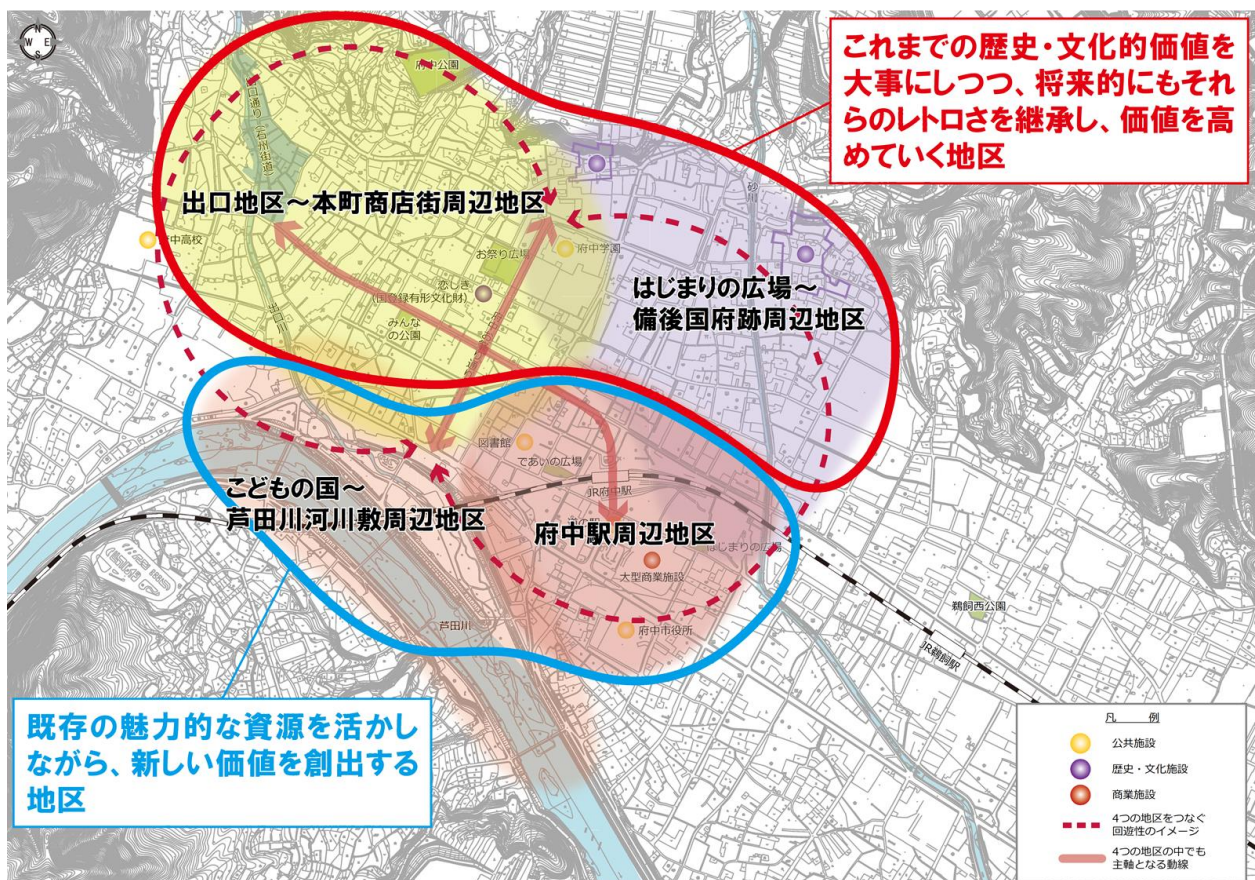


図 中心市街地・生活中心街のエリア価値の創出

3. 中心市街地・生活中心街の将来像

3. 1 中心市街地・生活中心街の将来像



息子(高校生)「府中市のまちなかの成り立ちはわかったけど、これから先どんなまちが必要になるのかなあ？」



母(40代)「どんなまちになれば、住みやすく、色々な人が訪れてくれる魅力あるまちになるのか考えてみるといいんじゃないかしら。」



娘(20代)「そうだね、エリアごとにどんな過ごし方ができると楽しい場所になるか考えてみようよ。」

グランドデザインの背景と目的や中心市街地・生活中心街の特性を受けて、また、これまでの都市再生の取組の状況等を踏まえ、新たな局面を迎えた地方都市のまちづくりに対応し、地域の新たな価値を創造するための将来像を以下のとおり掲げます。

■将来像

府中の本物(まんなか)を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち

【主 旨】

中心市街地・生活中心街には、備後国府時代から近代・近世に至る歴史・文化的価値の高い遺跡や古民家等の資源が数多く残っていると同時に、まち全体にもそうした時代の風情が閉じ込められています。しかし、その反面、歴史的・文化的資源がその価値を活かしきれず放置されていることに加え、都市部への人口の流出等も相まって、まちなかに遊休不動産が点在し、時代の風情が失われている状況です。

本市では、リノベーション先進都市として、歴史・文化的価値の高い古民家やまちなみの価値、風情を後世に継承しつつ、時代ニーズに合った活用しやすい用途・機能へと転換を図るなど、他の地域にはない『府中の本物(まんなか)』を感じさせる、“古さ”と“新しさ”が融合するリノベーションまちづくりを実践します。

また、本市には“オンリーワン・ナンバーワン企業”と言われる県内屈指のものづくり企業が数多くあります。そうした企業は、本市の経済・社会を長きにわたり支える地場産業であるとともに、“ものづくりのまち府中”のシンボルとして、現在も様々なものづくりを活発に行っています。そのため、今後も中心市街地・生活中心街のまちなみに、“様々な”ものづくりの機能を位置づけたリノベーションまちづくりを展開します。

これらの備後国府としての歴史や職人が支えるものづくり都市としての発展の歴史等を本市の強みとして確実に将来に継承するとともに、時代に合わせた先進的な技術を新たに取り込むことによって、市民と来街者が府中の本物(まんなか)を感じ、府中を楽しみ、暮らせるまちなかを実現します。

3. 2 目指すまちの姿

中心市街地・生活中心街の将来像を踏まえ、どのようなまちになっていたらよいか、“府中”というまちが形成されてきた歴史的背景や産業発展の背景を今後のまちづくりの根底に据えつつ、“市民の暮らしやすさ”と“来街者や活動団体・観光客が訪れ歩きたくなる中心市街地・生活中心街”といった視点から、あらゆる世代・性別・立場からみた目指すまちの姿のイメージを描きます。

(1) 目指すまちの姿

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち

生活に必要な機能等が駅周辺に集積し、道路や公共交通機関で結ばれることで、中心市街地を含む都市全体で住みやすく、快適な生活空間が形成され、人々は仕事と趣味を両立した日常生活を満足し、ゆったりと過ごしています。

また、行政と市民、民間企業が連携した取組が進み、職住遊が近接した暮らしの中で多世代が活発に交流し、子どもから高齢者まで誰もがアイデンティティを感じ、他にはない府中の魅力・府中暮らしを満喫し、楽しんでいます。

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ ビジネス活動がアクティブなまち

市民・活動団体等によってなされる小さなまちづくり活動の積み重ねや多様な立場の人による技術やアイデア、知識等の組み合わせ、歴史やものづくりを活かしたリノベーションまちづくりにより、ものづくり体験や見学など身近に感じられるイベント開催を通じて、ものづくりのまちを楽しみ、古くから残されているまちなみをどこか懐かしく感じて歩いてみたくなる空間が形成されています。

また、多様な年齢・立場の多くの来街者や国内外問わず観光客が集い、交流・滞在する場が創出されるとともに、中心市街地・生活中心街における活動やイベント、移動が活発に感じられるまちとなっています。さらに、地方へのオフィス移転等も進み、ビジネス活動が活発になっています。

(2) 人々の過ごし方（将来イメージ）

2章で示した価値の創出に向けた地区の考え方に基づき、目指すまちの姿について、中心市街地・生活中心街における、それぞれの場所ごとに、概ね20～30年後の「市民の過ごし方」、「訪れる人々や受け入れる人々」の活動・交流など過ごし方のイメージを示します。

府中駅周辺地区

市民の将来の過ごし方

○駅と道の駅が一体となった交流広場で人々がゆったり過ごす

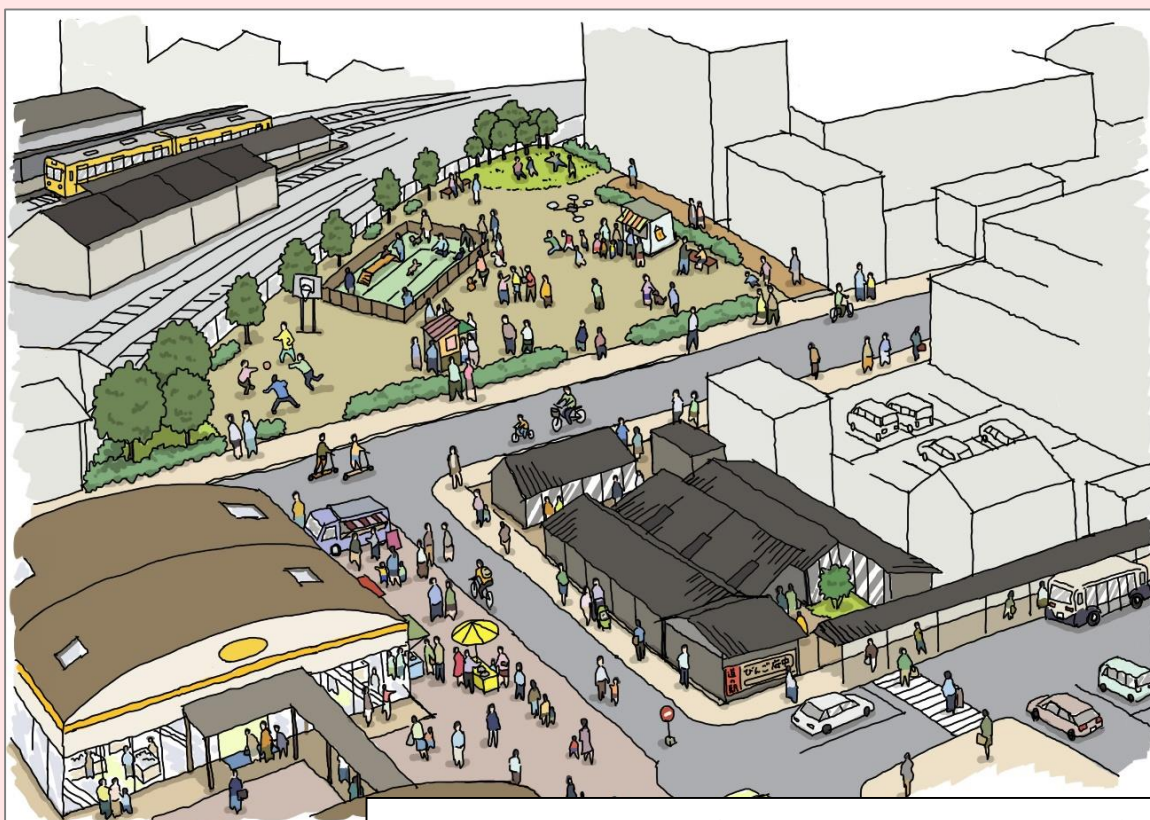
駅の南側では、道の駅が駅周辺の核となる施設としてリニューアルされ、その周辺にフットサル、ストリートバスケ等ができる広場が整備された。人々がくつろげる交流広場も整備され、移動販売車などが広場横に並び、気軽に軽食・カフェを楽しみながら、広場で多くの人々が談笑している。さらには、年に数回、ものづくり都市の象徴イベントとして、ドローンレース大会が開催されている

○健康で快適な生活環境となっている

高齢者にとっても住みやすく豊かな生活を送ることのできる環境がつくられ、何不自由なく趣味や地域活動等に没頭し、一日をゆったりと快適に暮らしている。このような環境がつくられたことで、外出機会も増え、いきいきと過ごしている

○駅周辺を中心として、多世代が活発に交流

生まれ変わったJR府中駅の周辺には、大型商業施設と連携した賑わい施設とともに、健康増進施設や子育て支援施設などが立地している。高齢者や子育て世代が日常的に利用し、世代間交流が活発に行われている

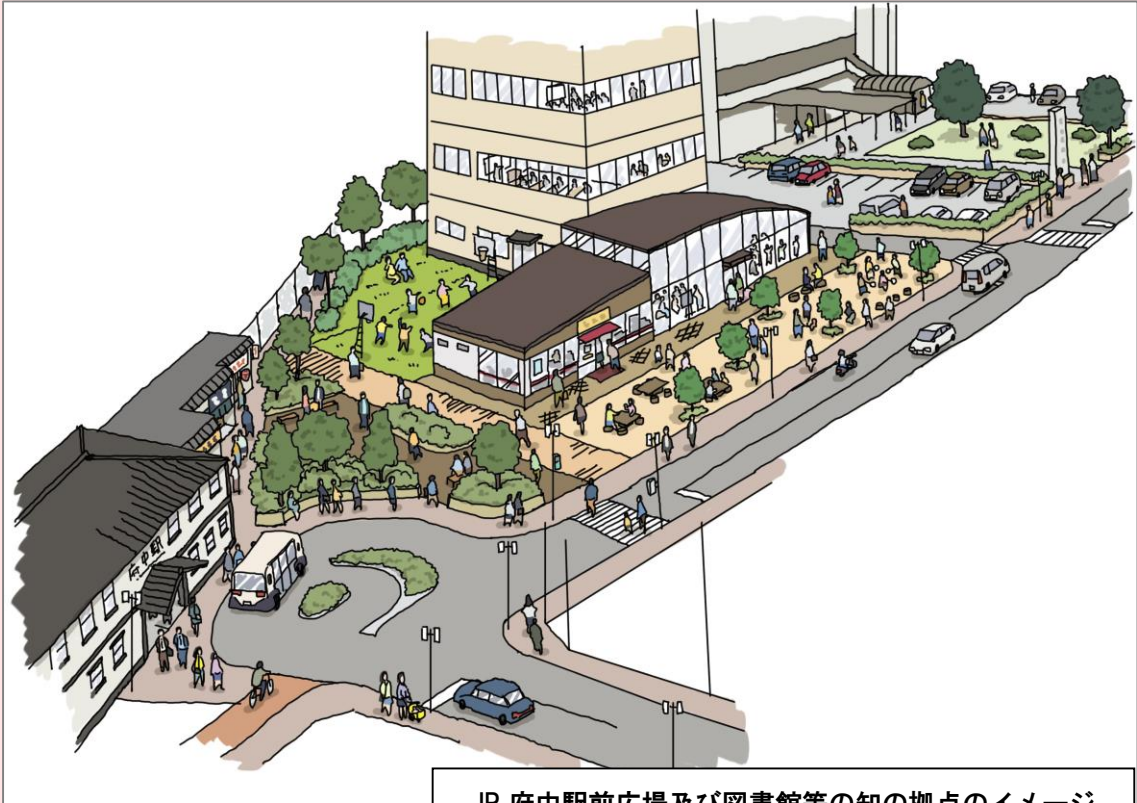


JR 府中駅と一体となった道の駅周辺の多世代交流のイメージ

府中駅周辺地区

○仕事終わりに趣味や飲食等を楽しみ交流する

駅周辺の空きビル等を活用して、居心地のよい統一された建物が立地し、出張のサラリーマン等が新しい生活様式に合わせた働き方として、コワーキングスペース、ワーケーションなどの様々な形態を活用しているなど、府中でのビジネスが拡大している。また、商店街のリノベーションも進み、まちなかで働く市民が仕事終わりにふらっと趣味やジム等に没頭し、飲食等のアフターファイブを楽しんで交流している



JR 府中駅前広場及び図書館等の知の拠点のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○JR 府中駅のリニューアルと交通結節機能の向上

JR 府中駅が、まちの顔として相応しい駅舎として生まれ変わり、公共公益施設、商業施設等の集積・複合化が進んでいる。また、子育て世代をはじめ、来街者やまちなかに近い住宅地に居住する人々にとっても快適な次世代モビリティを含めた交通環境が充実することで移動が便利になり、産業活動も活発になっている

○地元企業等によるイベントやセミナーで学生や高齢者等が交流

駅周辺では、空きビル等を活用して、ICT 等の先進技術を活用したイベントやセミナーが開かれ、地元企業やまちづくり活動団体等と学生や高齢者等が交流し、大学と連携した次世代の担い手を生み出す“学び・知の拠点”となっている

○ものづくり府中のイメージが広く浸透

多様で特色のあるものづくりの現場を広く来街者や市民に開放し、子どもたちをはじめ、誰もが地元企業のもので技術に親しみをもち、ものづくりの良さ、府中というまちの良さについて日本中に発信している

○国府のあったまち、ものづくりのまちであることを肌で感じる

来街者が駅を降りてすぐ、国府のあったまちであることや、ものづくりが盛んなまちであることを肌で感じるここのできる、シンボル性の高い拠点となっている

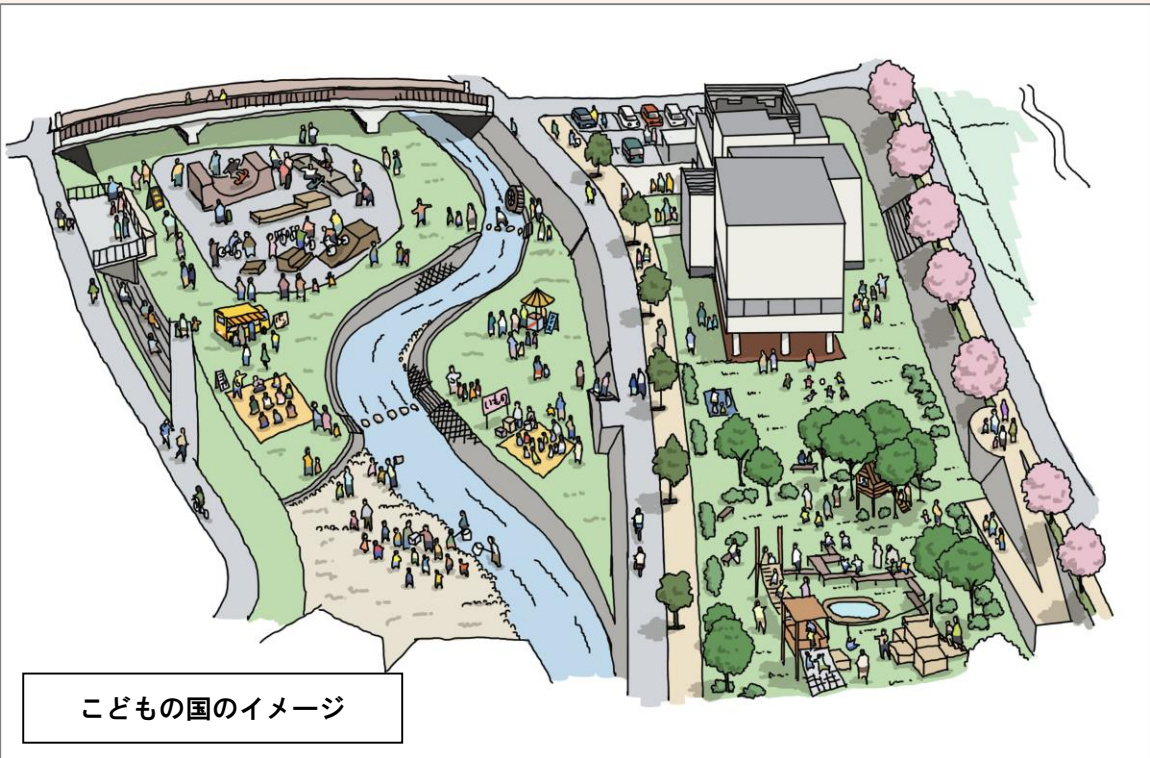
市民の将来の過ごし方

○平日・休日ともにアウトドアを満喫する市民が増えている

こどもの国では、今以上に人気が出ている。施設とその周辺を一体的にリニューアルし、子どもやその親たちが平日・休日も集まり、アウトドアやアスレチック等を楽しんでいる。
府中市こどもの国を目的に訪れた人が、府中を満喫して帰るため、駅周辺エリア等にも足を運び楽しんでいる

○水辺と親しむ子どもや河川空間をウォーキング等で活用する市民が増えている

河川敷ではかわまちづくりが進み、水辺と親しむ遊びを通じて遊びの幅を広げ、環境学習なども行われている。今の大人たちが子どもの頃楽しんでいた遊びを、今は子どもたちが、同じように楽しんでいる。学校での教育だけでなく、自然を通じて学ぶ知識により、生活力を身につけ、心と体を成長させることにより、社会を生き抜く力を育むとともに、ふるさとに誇りや愛着を持った人づくりが進んでいる。また、高齢者をはじめとして、健康志向の高まりに合わせて、気持ちの良い空間でウォーキングやジョギング、犬の散歩などで大いに活用されている



こどもの国のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○週末に府中の自然やスポーツを満喫する来街者が増え、にぎわっている

週末や連休には、かわまちづくり整備が進んだ河川敷に、アーバンスポーツ、お手軽なアウトドア、アスレチック等を含めた新たなスポーツを楽しむ人々が市外からも沢山訪れ、賑わっている、また、トップアスリートとの交流が活発に行われ、スポーツが日常の一部となっている

○駅周辺などからも府中市こどもの国を利用する来街者が増え、府中を楽しんでいる

府中市こどもの国を訪れる市外の家族連れ、周辺の都市から遠足に来る子どもたち、河川敷で楽しむ人々も循環バスやPOM小路を介して足を運んでいる

市民の将来の過ごし方

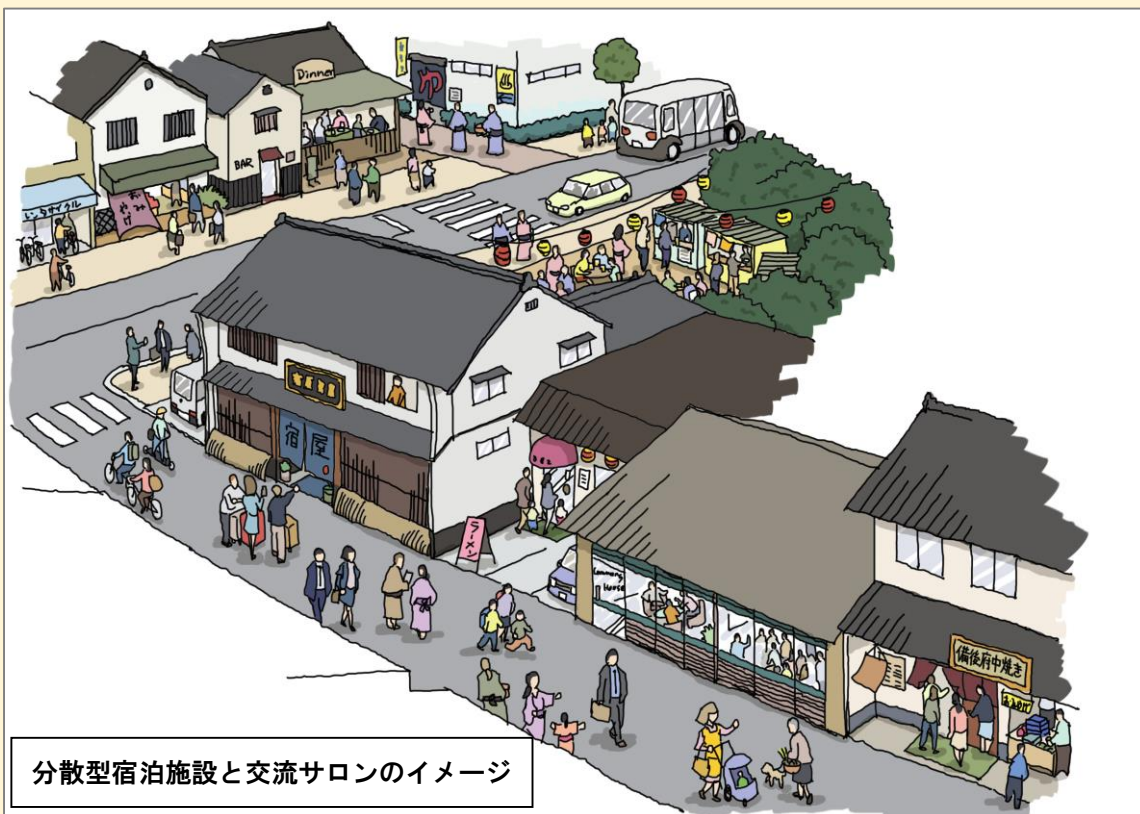
○職住遊近接で充実した暮らしを送る移住者が増えている

府中学園を中心に、コミュニティスクールにより地域とともにある学校づくりが定着し、地域（産業）に密着した先進の教育が受けられると評判になっている。空き家は増えたが、生活機能も地域で維持されていることから、移住してくる子育て世代も増えた。その子どもたちが府中学園に通っている。職住遊近接であることに加え、ICT 等を活用したテレワークや生活が便利になったことで、仕事や子育ての空いた時間で趣味を活かした集まりなどに参加し、来街者を交えた地域コミュニティが活発になっている

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○宿泊施設や交流サロンへのリノベーションにより外国人宿泊客が増えている

恋しきという府中市の近代を語る歴史的な建造物が周辺の古民家などのまちなみと一体的に活用されるとともに、古民家をリノベーションした分散型宿泊施設が何軒か立地し、国内はもちろん、インバウンド外国人も多く滞在するようになった。当該宿泊施設は、宿泊機能のみを備え、食事や風呂は駅周辺等のまちなかで楽しんでもらうことをコンセプトとしており、慣れない浴衣姿で歩く外国人が増えたことで、中心市街地・生活中心街全体を滞在者がそぞろ歩きするようになった。また、夜が明けて翌日には、出口地区の古民家をリノベーションした交流サロンで、地域の子どもたちと時々日本語を交えながら、英語による会話・交流が生まれている



分散型宿泊施設と交流サロンのイメージ

出口地区～本町商店街周辺地区

○来街者によるものづくり体験と地域の活動の融合

本通り商店街や石州街道周辺では、日本文化やものづくり技術を体験できる店舗等や土産店が並び、来街者の体験とそれを受け入れる地域の人々の活動が融合し、来街者にとってレトロで世界観のある楽しい空間に生まれ変わった。観光客が皆、府中を体感し、府中ならではのお土産を手に楽しそうに帰っている

○郡役所の多目的利用によって多くの人々の滞留・交流が活発になっている

郡役所や恋しきという府中市の近代を語る歴史的な建造物が市民や来街者に日常的に府中の近代を目や耳に、肌で感じることでできる施設として再生され、府中の文化的中心エリアが創出されている。特に郡役所は、府中市の特性の一つである“ものづくり文化や起業精神”をテーマとした学びの施設となり注目を集めている。また、移築した郡役所周辺には、人々がくつろぎ、滞留・交流できる文化的な活動のできる場所として認知され、そこで展開されている交流イベントやパブリックビューイング、映画鑑賞等を目的に地域住民や来街者が日常的に使っている

○空き家等を活用したギャラリーやウォールアートを楽しむ人が増え回遊性が向上している

商店街を中心に空き家・空き店舗等を活用して、地域の子どもたちを中心とした絵画・ポスターが展示され、街路では美大生や芸術家によって巧みなウォールアートが描かれている。JR 府中駅等からレンタサイクルで、当該地区のまちなみを快適に回遊する来街者が増えた。また、多くの来街者や地域住民等がこれらのアートを楽しむため歩いて回遊するようになったことで、空き家・空き店舗等のリノベーションがさらに進み、カフェや飲食店に生まれ変わり、アクティビティが感じられる中心市街地・生活中心街となっている



ものづくり工房とアートのイメージ

はじまりの広場～備後国府跡周辺地区

市民の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、日常的に利用されている

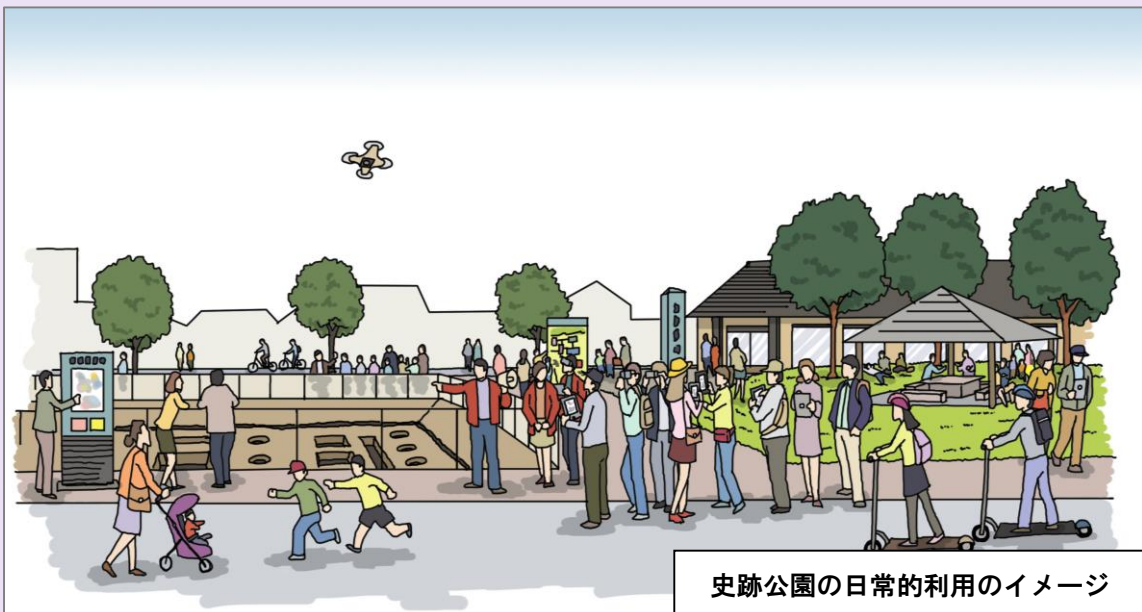
「史跡備後国府跡」のある場所は、史跡公園として整備され、市民や子どもたちの学習の場やイベント、遊び場として日常的に活用されている

○発掘調査の見学会や体験イベントが好評になっている

史跡指定地外の発掘調査は継続しており、調査の見学会や、子どもたちや市民を対象にした発掘体験イベントが好評である

○市史が編さんされ、多くの市民が府中市の歴史を語れるようになっている

近年配布された市史を編さんした冊子は分かりやすいと好評で、備後国府の時代をはじめ府中の歴史・文化に対する市民の理解が進み、子どもたちを中心に、ほとんどの市民が地域の歴史を語ることができるようになった



史跡公園の日常的利用のイメージ

訪れる人々や受け入れる人々の将来の過ごし方

○史跡の内容がわかりやすく伝わるよう史跡公園が整備され、多くの来街者が訪れている

備後国府跡周辺では、国府跡の保存とともに史跡公園が整備され、多くの来街者がイベント等として日常的に活用されている

○福山・府中エリアの歴史文化をたどるツーリズムが人気となっている

福山湾岸から府中市域を舞台に展開された古代・中世の歴史・文化(鞆の浦や福山湾岸の遺跡、さらに備後国分寺や古代山陽道、神辺城跡や相方城跡など)をたどるツーリズムが盛んになっていて、市内観光との相乗効果を上げている

○府中の歴史等を伝えるガイド活動が盛んになり、わかりやすい内容が人気になっている

府中の歴史・文化・観光地を案内し情報を伝えるガイド団体の活動が盛んで、地域ならではの詳細で分かりやすい内容が人気になっている

4. 将来像の実現に向けた方針と取組



息子(高校生)「まちなかをエリア別に将来の過ごし方を想像してみたけれど、どうやったら実現するんだろう？」



母(40代)「具体的に取り組むために、今何があって、何が足りないのか考えてみましょう。」

4. 1 エリア設定

エリアの特性や人々の過ごし方(将来イメージ)を踏まえ、以下の通り4つのエリアを設定します。

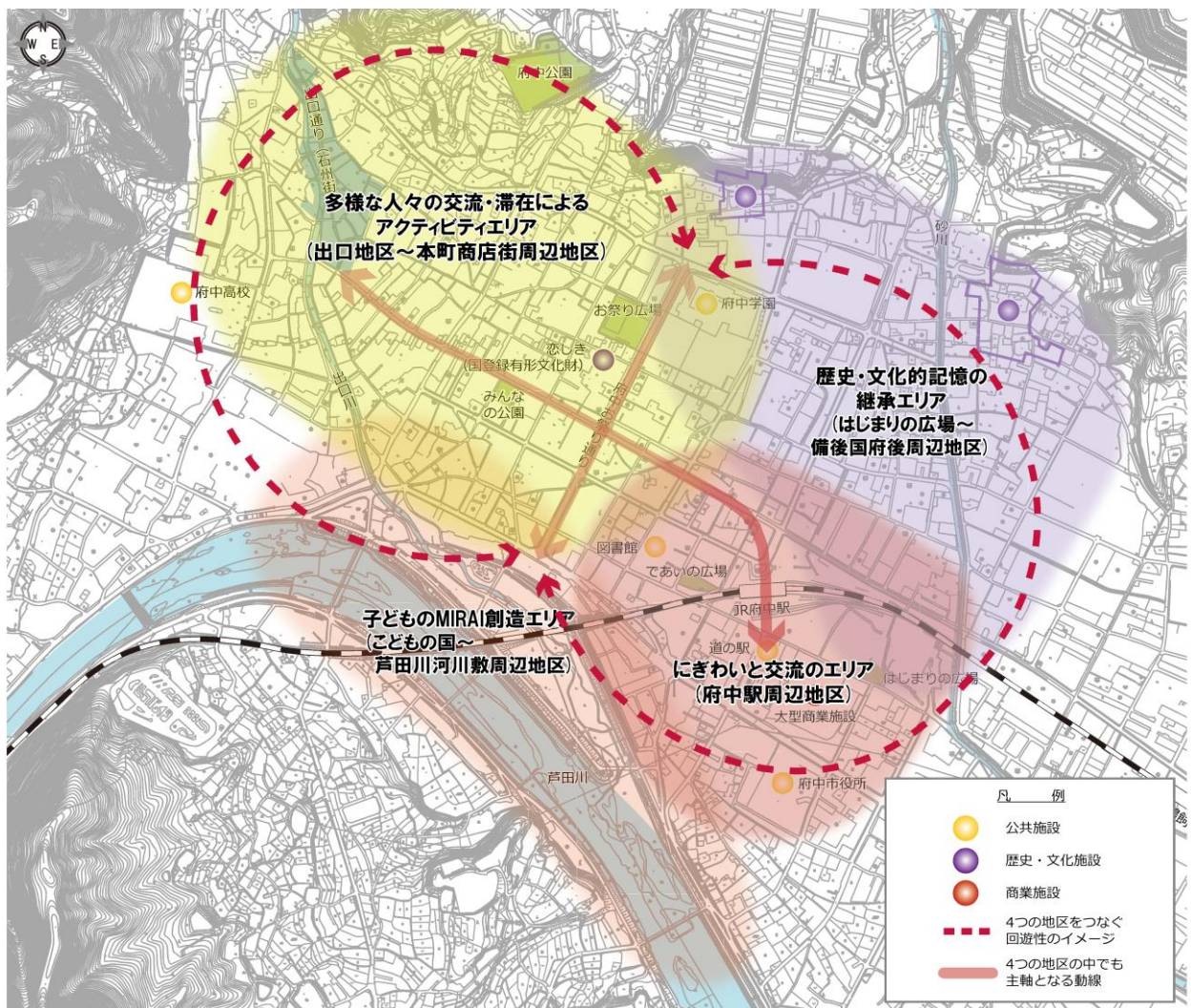


図 中心市街地・生活中心街のエリア区分

4. 2 エリア別の戦略目標と取組方針

目指すまちの姿や人々の過ごし方（将来イメージ）の実現に向けて、4. 1で設定した4つのエリア別に将来像と現状とのギャップ及び今後活かそうな要素を整理し、各エリアで展開すべき戦略目標とその取組方針等について示します。

（1）にぎわいと交流のエリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち



にぎわいと交流エリア

■将来像との ギャップ

- 駅施設は更新の時期を迎えており、交通結節機能の強化を図るためには駅前広場が手狭である。駅南北の歩行者等の動線のつながりが悪い
- 駅周辺の空地、空きビル、空き店舗等が十分に活用されておらず、市民にとってくつろげる居場所、滞留空間がない
- 市街地中心部では、空洞化が進んでいる

■今後活か そう要素

- まちの中心部に鉄道駅や道の駅、市役所その他公共施設等は駅を中心とした生活中心街に立地している。特に、駅を中心として他地域とつながっていることは大きい
- 子育てや教育分野は、コミュニティスクールにより、地域とともにある学校づくりが定着し、待機児童ゼロなどの取組が全国トップクラスの先進地である強みを活かすことで、次なる施策展開が容易である
- 学習の先進都市の顔として、ICTなど次世代通信技術による技術を掛け合わせることで、次世代の拠点となり得る

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち



にぎわいと交流エリア

■将来像との ギャップ

- 道の駅が地域振興機能を発揮できていない
- 駅南北の歩行者等の動線のつながりが悪い
- 駅前広場にバスの乗り入れがなく、交通結節機能が弱い
- 駅周辺には空地、空きビル、空き店舗等が多く、十分に活用されていない
- ものづくりや伝統産業に対する市民の実感が乏しく、事業継承が課題である

■今後活か そう要素

- ものづくりの高い技術を有する企業が集積している
- ドローンレース大会等が実施されている
- 道の駅やその周辺の空地・未利用地など、多くの人を集客し稼ぐためのポテンシャルはある
- 瀬戸内ファクトリービューによる地域に開かれたイベントが実施されている
- 大学誘致に取り組む団体がある



道の駅における賑わい創出



カフェ等による賑わい創出



芝生広場でのくつろぎ空間創出

特 性

- 市役所や JR 府中駅、道の駅、大型商業施設、生涯学習センター、図書館をはじめとした府中市の都市機能が集積した日常生活の中心エリア

戦略目標

- 道の駅や商業施設等が集積する府中市の玄関口として駅前の持つポテンシャルを活かし、機能強化を図ります
- 駅周辺の南北の往来が活発になるよう、南北の連絡強化を図るとともに、地域住民と来街者が入り混じり、交流する拠点として、新たな賑わい創出を図ります
- 市民の日常生活においても暮らしの安心を生む交流や“学び”の交流、クリエイティブで未知と出会う交流を図ることのできる拠点づくりを行います
- 各エリアへの回遊を促す基点として、駅の北側を中心として官民によるパブリック空間の創出を先導するとともに、新しい生活様式に対応した働き方を実現する拠点形成を図ります
- 駅周辺の低未利用地等を活用したまちなか居住の促進を図ります

取組方針

- 府中の玄関口として JR 府中駅周辺を再整備し、交通結節点機能の強化、移動の快適さを図るとともに、市内外の人々の交流（ハブ）拠点や大学等と連携した教育や研究など、次世代通信技術を使い学習できる拠点として、空き店舗・空きビル等の遊休不動産の活用を含め、取組みを図ります
- 生活機能の中心拠点として、子育て層をはじめ、市民がゆったりと時間を過ごせる場所づくりを行います
- まちなかだけでなく、周辺の住宅地においても、誰もが府中暮らしを楽しめるよう、生活機能の中心地と周辺の住宅地を効果的・効率的に連絡し、利便性の高いまちなかを実現します
- 府中の中心となる賑わい拠点として、市民の暮らしに必要な利便機能と来街者が求める娯楽機能が交差し、市内外の人々の交流を促進する拠点形成を図ります
- 特に、子育て層がゆったりと時間を過ごせるよう、駅の南北でのつながりや、“子どもの MIRAI 創造エリア”との一体的なエリア形成を進めます

将来像に向けた取組例

- ゆとりとくつろぎの広場・空間づくり
- 駅周辺への商業施設・公共施設の集積
- 子育て支援機能や学習・研究・交流機能の導入
- JR 府中駅のリニューアル
- 空き店舗のリノベーション、空きビル等のコンバージョン
- 健康増進施設機能の導入
- 図書館及び駅前通りファサード整備

(2) 子どもの MIRAI 創造エリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち



子どもの MIRAI 創造エリア

- 将来像とのギャップ
- 河川空間活用のための施設整備には、法による制約の整理が必要
 - 河川敷の一部で遊歩道、親水護岸整備をされているが、更なる河川空間の活用が必要とされる
 - こどもの国の利用者や河川空間で遊ぶ利用者のための駐車場が不足している

- 今後活かせるような要素
- 親が安心して子育てができる“子ども関連施設”と南北を大小の河川で挟む自然豊かな環境から、次世代を育てる拠点になり得る

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち



子どもの MIRAI 創造エリア

- 将来像とのギャップ
- 河川空間活用のための施設整備には、法による制約の整理が必要
 - 駅周辺からの歩行者動線がわかりにくい
 - こどもの国の利用者や河川空間で遊ぶ利用者のための駐車場が不足している

- 今後活かせるような要素
- 週末には、今も多くの来街者が訪れて、こどもの国を満喫している
 - “子ども関連施設”と南北を大小の河川で挟む自然豊かな環境に恵まれている
 - トップアスリートを擁するスポーツチームと市内体育施設や学校を通して交流している実績がある



賑わいに溢れる河川空間



河川を総合学習の場として活用

特 性

○府中市の強みでもある子育て支援の拠点として、こどもの国を中心にしながら、子育て支援の拠点として、芦田川・出口川などの河川空間を活かしなら、“遊び”や“教育”のあり方を発信するエリア

戦略目標

○府中市の強みでもある子育て支援の拠点として、“MIRAI”のまちづくり戦略のコアとなるエリアを形成し、次の世代へと受け継いでいくためのメッセージを発信します

取組方針

- 子どもやその家族も楽しめるエリアとして、こどもの国を中心に、芦田川と出口川を結ぶ自然が充実したエリアを形成します
- 児童館の外遊びや周辺と連動した公園整備を行い、賑わいをまち全体に波及・発信するとともに、“遊び”を通じた子どもたちの健全な成長を促します
- 河川空間活用との連動やPOM小路を歩いて楽しめる空間にし、駅とのつながりをつくります
- 子どもたちから高齢者までが、スポーツを日常の一部として楽しめる環境をつくります

将来像に向けた取組例

- 水辺や風を感じ、自然と親しむ空間を活用した賑わいづくり
- アーバンスポーツの充実等を図る、運動・交流機能の導入
- 「にぎわいと交流のエリア」とを連絡する楽しい歩行空間づくり
- トップアスリートと交流できる環境づくり



キッチンカーなどによる賑わいの創出



トップアスリートとの交流や
新しいスポーツ機能の導入

(3) 多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち



多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

■将来像との ギャップ

- 狭小敷地の連坦や狭あい道路等により、土地利用に制約がある
- 空き家、空地の増加により、防犯や衛生上、地域の課題となっている
- 居住者の高齢化により、地域コミュニティを再生するためのきっかけづくりが必要
- 商店の減少により活気が減少している、また、次世代による店舗の継承、新たな出店等、活動できる環境が求められている
- 伝統産業を守り、育てる取組が必要

■今後活か そう要素

- 子育てや教育分野は、地域と学校が密着し地域と協働で“人”を育て“学び”の場を創るなど、全国トップクラスの先進地であり子育ての分野では、待機児童ゼロ、一時預かり等により、子育て環境は整っている
- 都市部にはない風情のある古民家が多く建ち並んでいることに加えて、ICTなど高速通信技術の導入によって、都市部よりも一層、魅力的な職住空間に生まれ変わることでできる潜在性がある

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち



多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア

■将来像との ギャップ

- 市内企業の多くが、ものづくり（2次産業）と販促（3次産業）はすみ分けて考えており、みやげなど、販促と一体となった事業化が必要
- 空き家・空き店舗等が柔軟に活用されていない
- 空き家・空き店舗が連なっている通りとなっている
- まちなみから郡役所のあった時代の面影が失われつつあり、歴史的まちなみを活かすための取組には地域住民の意識共有と時間を要する

■今後活か そう要素

- 郡役所の移転候補地と駅周辺、商店街等は、中心市街地・生活中心街再生のコアとなるため、施設とその周辺を効果的に活用することで、活動や移動が活発になる可能性がある
- 外国人にとって魅力的な日本の歴史を感じることでできる施設が多く点在している
- アートは回遊性を生むための仕掛けとして効果が高く、協力者を募ることができれば実現性が高い
- 石州街道・出口地区まちづくり協議会によるまちづくりのノウハウ



地域分散型ホテルの整備



古民家等のリノベーション

特 性

- お祭り広場や本通り商店街、恋しき、近世・近代のまちなみなどの歴史的資源が多く集積しており、近年では古民家等を現代風に再生したカフェなど、リノベーションが進んでいるエリア

戦略目標

- 近世の宿場町であった雰囲気を残しつつ、古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりにより、人中心の中心市街地・生活中心街へのリノベーションを推進します
- 近代のものづくり産業が発展した府中のシンボルとして、多様な人々が回遊し、滞在するエリアとして、古さを活かし、新しさを融合するまちづくりを推進します
- 古民家等の歴史的に価値ある資源をリノベーションした居住の促進を図るとともに、落ち着きのあるまちなみで、地域住民が“普段着”の交流を図るエリア形成を推進します

取組方針

- 石州街道出口地区の景観を活かしリノベーションした施設において、味噌等の特産品の販売や地区ならではの体験、地域活動やイベントが開催されるなど、地域住民と来街者が交流し、出会う場を形成します
- 近代・近世のまちなみ、府中を代表する建築物の修景を図るとともに、これまでの既成概念にとらわれない多様な用途による建物活用により、まちなみの魅力を引き出します
- 市民による空き家・空き店舗等の有効活用により、中心市街地・生活中心街暮らしや立ち寄れるスポットづくりを行うなど、まちあるきを楽しめるエリアを形成します
- お祭り広場や府中市地域交流センター等を中心とし、多様な人々が交流・滞在するイベントや地域活動の場として活用するなど、活動や交流による賑わいやアクティビティが感じられる拠点を形成します

将来像に向けた取組例

- 空き家等のホテルやカフェ等への転用など、多様な人々の交流・滞在空間の創出
- ものづくり工房やアトリエ等の市民に開かれた“ものづくりの場”の展開
- 回遊性を高める歩行者空間のウォールアート化や空き店舗等を活用した市民アートギャラリー化の推進
- まちなみの風情を活かした空き家等の柔軟な利活用・リノベーション支援
- 歩いて楽しい歩行空間づくり
- 次世代モビリティによるまちなか移動の検討
- 居心地が良く歩きたくなるまちなか形成のための駐車場適正配置

(4) 歴史・文化的記憶の継承エリア

【市民の暮らしやすさの視点】

誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち



歴史・文化的記憶の継承エリア

- 理想とする
まちの姿との
ギャップ
- 「史跡備後国府跡」の指定地の用地取得や調査は進んでいるが、市民に取組に対する理解を深める必要がある
 - 現在の歴史民俗資料館（旧芦名郡役所）を移築し、別用途での活用を図る場合、備後国府に関する展示、情報発信を行うために別の拠点整備が求められる

- 今後活か
せよう要素
- 改正された文化財保護法に伴う「文化財保存活用地域計画」や、史跡指定に伴う「史跡備後国府跡整備基本計画」の策定と、計画に基づいた史跡及びその周辺の具体的な保存や活用
 - 府中のこれまでの歴史に ICT など次世代通信技術を掛け合わせた案内をすることで、最新技術による次世代の歴史を学習
 - 備後国府の「政庁」が見つかっていないこと、備後国府関係の遺跡が市街地北側に位置すると予想されることから、今後の調査の過程や成果により歴史ロマンを育む要素とする

【訪れる人々や受け入れる人々の視点】

来街者や活動団体など、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち



歴史・文化的記憶の継承エリア

- 将来像との
ギャップ
- 「史跡備後国府跡」は調査が進行中であり、拠点施設整備や観光に向けた活用には時間を要する

- 今後活か
せよう要素
- 改正された文化財保護法に伴う「文化財保存活用地域計画」や、史跡指定に伴う「史跡備後国府跡整備基本計画」の策定と、計画に基づいた史跡及びその周辺の具体的な保存や活用
 - 府中のこれまでの歴史に ICT など次世代通信技術を掛け合わせた案内をすることで、最新技術による次世代の歴史を学習
 - 備後国府の「政庁」が見つかっていないこと、備後国府関係の遺跡が市街地北側に位置すると予想されることから、今後の調査の過程や成果により歴史ロマンを育む要素とする



古代散策ルート及び案内板の整備



広場空間と一体となった
遺構の保存・活用イメージ

特 性

○総社やはじまりの広場など「備後国府」に関わる歴史・文化を包蔵し、府中の起源となるエリア

戦略目標

○「史跡備後国府跡」の保存・活用をはじめ、府中の古代・中世の歴史や文化についての記憶を継承し、市民に日常的に活用し親しんでもらいます

取組方針

- 「史跡備後国府跡」の指定地を、市民や子どもたちの学習や憩いの場、イベント会場や遊び場として、また県内外の来街者が集う観光と交流の場所として、建物等の復元、VR・ARなどのICT技術の活用により、楽しく分かりやすく整備・活用します
- 指定地に隣接した場所には、備後国府をはじめ、府中の歴史・文化に関わる資料の収集・調査研究・展示公開・学習支援を行う拠点施設を設置し、府中の歴史・文化・観光などの情報発信を行います
- 歴史・文化の町中散策や市域を超えたツーリズムや市民のガイド活動など、様々な仕掛けづくりを実施します

将来像に向けた 取組例

- 歴史・文化学習の場としての整備・開放
- 歴史・文化散策ルートの整備
- 市民活動の組織化



整備されたはじまりの広場



国府ウォーク(歴史関係イベント)の様子

■実現に向けた展開イメージ

エリア別の取組方針の実現に向けて、エリアの特性や活かせそうな要素を踏まえた取組を展開するため、各エリアの拠点性を高めるための考え方やエリア間を効果的につなぎ、回遊性を高めるための考え方について整理し、「エリア別将来イメージ」「将来像に向けた取組例」にまとめます。



息子(高校生)

エリア別の特性や戦略目標、取組方針、実際に取り組もうとしていることがなんとなくわかってきたかなあ。
こうして見てみると、各エリアで将来像とのギャップはあるけど、今後活かせそうな要素も結構あるもんだね。
これらの要素を活かせば、ほんとにまちが変わっていく気がしてきたなあ。

確かに、戦略目標と取組方針を見ると、具体的に何を目指して、どのようなことに取り組もうとしているか見えてきたわね。



母(40代)



父(50代)

活かせそうな要素を見てもらうとわかると思うけど、府中市が有する自然・歴史・文化などの資源もあれば、ものづくりとか、NPO等の精力的な活動なんかも今後、府中市の発展に活かせる要素になることがわかるな。それだけじゃなくて、新技術とか将来求められることも府中市には備わっているんだな。

そうだね、昔からある技術から将来に向けた新技術まで活かせるものがあるってすごいことだよな！
個別のエリアの戦略目標などはよくわかったし、エリア間のつながりや、具体的な取組例とかは、第4章の最後にある地図で見てみると、もっとよくわかるよね。
第3章にもあった、将来イメージのスケッチと取組事例の写真もあるから、具体的なイメージがわきそう。



娘(20代)



息子(高校生)

次のページ以降の「エリア別将来イメージ図」と「将来像に向けた取組例」を見ると、4つのエリアの位置関係やそれぞれのエリアで取り組むことも具体的によくわかるから、全体の将来イメージができるね。

駅周辺の取組例に、ゆとりとくつろぎの広場・空間づくりってあるけど、駅周辺に買い物に行って帰るだけじゃなくて、くつろいでから帰ることもできる空間づくりがされるのね。
駅周辺だし、市民だけでなく、市外からの人も来られてくつろいで帰ってもらえればいいわね。



母(40代)



娘(20代)

駅周辺へのアーバンスポーツ機能の導入ってあるから、もしかして、ちょっとしたフットサルとか、ストリートバスケットみたいなこともできるようになると賑わってきそうだね。
それと、健康増進施設の中にジムとかあったら、私、会社帰りに寄り道して体を動かしてから帰ろうかな。

そうだな、運動不足解消に仕事帰りに汗を流して帰るのもいいかもな。ライフスタイルも変わっていきそうだな。わしは、まちなみの風情を活かした空き家等のリノベーションとか、市民アートギャラリーなどが気になるなあ。
まちなみの価値を活かしながらも、リノベーションして生まれ変わっていくと、ますます府中市の魅力度がアップするんじゃないかな。



父(50代)

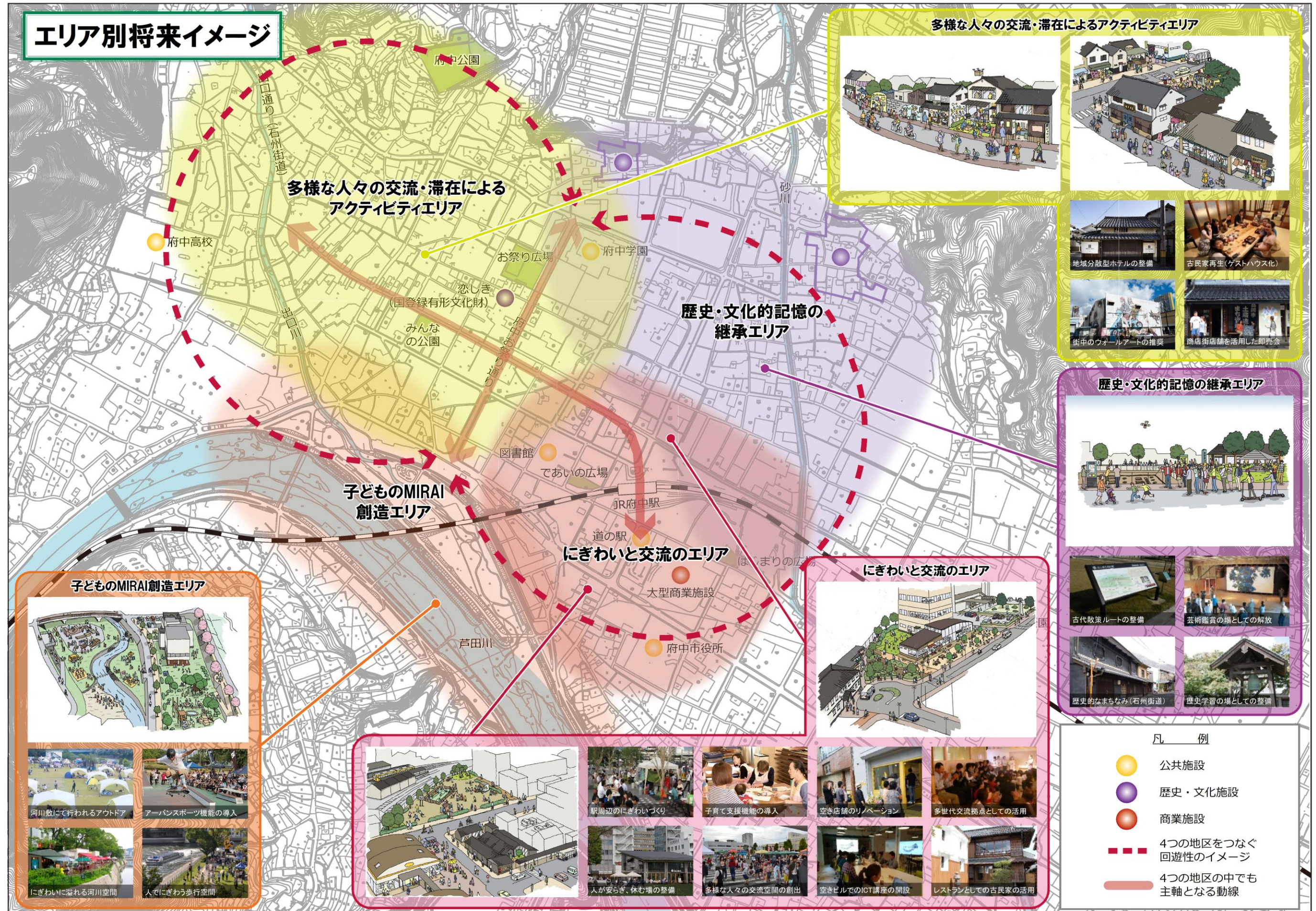


息子(高校生)

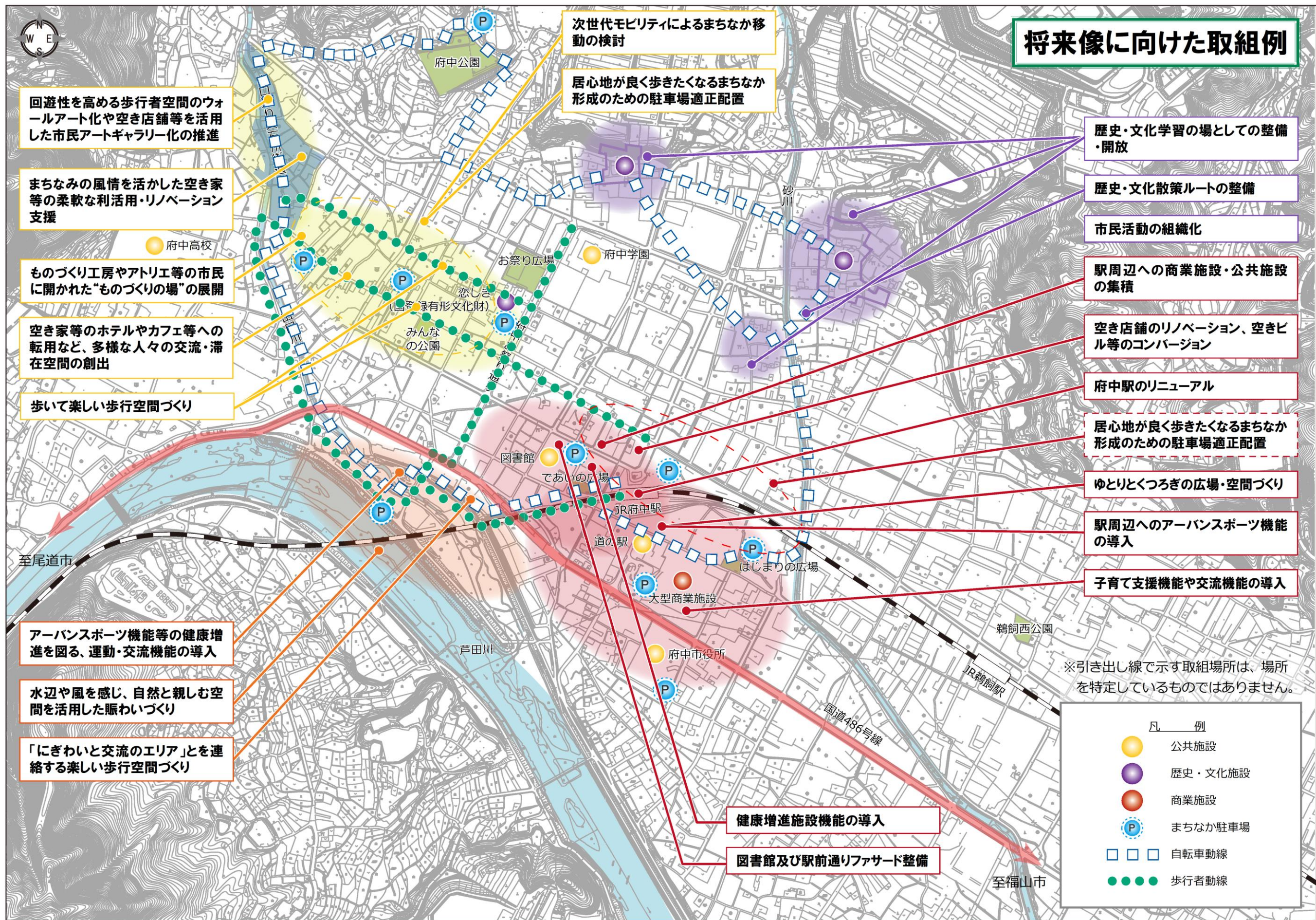
そうだね、魅力的なまちになる予感がしてきた。
もう1つ、次世代モビリティによるまちなか移動の検討ってあるけど、どんな車が走るんだろう。すごい興味が湧いてきたなあ。



エリア別将来イメージ



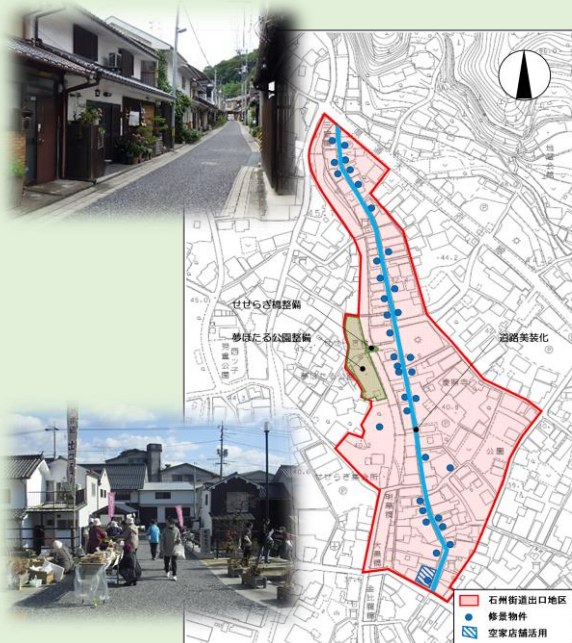
- 凡 例
- 公共施設
 - 歴史・文化施設
 - 商業施設
 - 4つの地区をつなぐ回遊性のイメージ
 - 4つの地区の中でも主軸となる動線





取組例1：石州街道出口地区まちづくり協議会／ まちなみの修景事業

歴史あるまちなみを活かし、建物の修景を行うとともに、積極的なイベント開催や観光ボランティア等の活動をしています。また、空き家・空き店舗のリノベーションによる活用も行っており、出口地区を歩く人が増えつつあります。



石州街道・出口地区に
おける修景箇所



取組例2：市民有志／キラリン夜店

年に1回、夏にお祭り広場にて、市民有志で祭りを開催しており、毎年考案する祭りの内容が地域の子どもたちに好評となっています。



取組例3：大型商業施設／ 行政機能(ネウボラ拠点)の導入

中心部にある大型商業施設を活用した行政機能の導入により、官民連携による賑わいづくりのための運営のあり方を検討しています。



取組例4：瀬戸内ファクトリービュー実行委員会／ 瀬戸内ファクトリービュー

府中・福山地域の約 20 の工場(木工・繊維・金属・味噌など)を見学できるイベント。素材や技術に触れられる、体験できるワークショップも開催。工場も地域の大きな魅力の一つとして知ってもらう機会を作ります。



取組例5：府中まちなか繁盛隊・府中商工会議所／ 一店逸品運動

府中市民をはじめ、多くの人に地元のお店のことを知っていただけるよう、各店が自信を持ってオススメする商品・サービスをアピールしていく「一店逸品運動」を行っています。



取組例6：市内スーパー／ぐるっとバス(市内循環バス)の利用者割引サービス

市内スーパーの提案により、市内を循環するぐるっとバスを利用して買い物した方への割引サービスを行うなど、官民連携による公共交通の利用が促進されています。



(2) みんなで“リノベーションまちづくり”の浸透

第3章に将来像として、『府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち』を掲げています。その主旨にもある「リノベーションのまちづくり」は、古い建物を改修することだけではありません。リノベーションはRenovationと書き、つまり「Re-innovation」ということになります。イノベーションとは、新たなアイデアや価値を創造・発明することであり、リノベーションとは新たなアイデアや価値を創造しなおすということになります。この価値を創造しなおす過程において、市民のシビックプライドの醸成にもつながるものになります。また、「Re-generation」という意味合いもあり、再発見・再認識したアイデアや価値を次世代につないでいくという概念もあります。

「まちづくり」は、行政だけが行うものではなく、日々の暮らしの中で一人ひとりが始められるものです。自分のまちで楽しく暮らす工夫を続けることで小さな芽が市内に広がり、このまちを変えていくことがリノベーションまちづくりに繋がっていくのです。

(3) “官民連携まちづくり”を進める行政のスタンス・取組

1) 取組方針

上記、基本的な考え方を踏まえ、官民連携のまちづくりを進めるため、府中市役所は以下の方針で取り組みます。

- ① 「官」「民」それぞれにとっての相乗効果を生むようなまちづくりを行います
- ② 庁内組織で横断的な連携を図り、官民一体となって取組んでいきます
- ③ 市民、民間事業者、団体等が活動しやすいよう、全力で支援します

FUCHU TACHIMACHI TECH ACADEMY

府中 タチマチ テック アカデミー 実践講座

LINE、Google、Zoom などデジタルツールの使いから応用講座。そして、専門家と交えてデジタルを活用した業務改善プランを参加者同士で書き合う場を用意して、「デジタルに強い府中市」を一歩進めます。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開催内容の変更が行われる場合があります。ご了承ください。

基礎編	応用編
デジタルツール各種の効果的な使い方について、知って体験していただける講座、一般・ビジネス向けの講座。 Zoom、PayPay、Google for Education、Instagram、LINE	ビジネスフローを加速させる各種デジタルツールの紹介と、課題に応じてすぐに使えるような解説を行う。主に事業者向けの講座。 Chatwork、G suite、Sansen、CLOUDSIGN
場所 府中商工会議所 応用編：府中市役所 445-1	定員 各回 30 名
参加費 基礎編：無料 / 応用編：各回 2,000 円	



主催：府中市 後援：広島県 広島県教育委員会 府中市教育委員会 府中商工会議所 上下町商工会

新しい生活様式への対応として、民間提案により、デジタル化に向けたセミナー等を企画するなど、市民向けの取組みを始めています



■取組の概要

働き方改革や新しい生活様式に対応するために活用できる各種デジタルツールに関して周知し、情報格差の是正の一助とすることなどを目標に、市内の事業者や市民の誰もがITを容易に扱えるよう、年代や場面に合わせた適切なカリキュラム（セミナー）を開催しています。

【事例】 府中 ICT リテラシー普及促進事業「府中 タチマチテック アカデミー」の取組の様子

2) 具体的な取組

①官民がwin-winとなる官民連携まちづくりのフェーズ検討

昨今、府中市では、団体等や市民等、民間事業者による活動あるいは官民連携による活動が活発に行われ【種を蒔く段階】、少しずつではありますが、“活性化の芽”が芽吹き始めています。これらの活動を次の新たな活動の掘り起こしを誘発し、新たな活動へつなげていくことが重要です。

新たな活動の創出につなげるため、庁内に共創の窓口を設置し、民間事業者等からの様々な提案を受けて、地域の価値の創出と地域課題の解決を同時に図ります。また、この段階では、担い手の確保・育成を図るため、官民や民間企業間で情報共有・意見交換を行うための場の調整を図ります【芽が出始めた段階】。さらに、これらの活動・取組に関わる人材の育成や活動の実態化を図るため、各種支援を図ります【育てる段階】。その後、これらの活動により将来像が実現します【実る段階】。

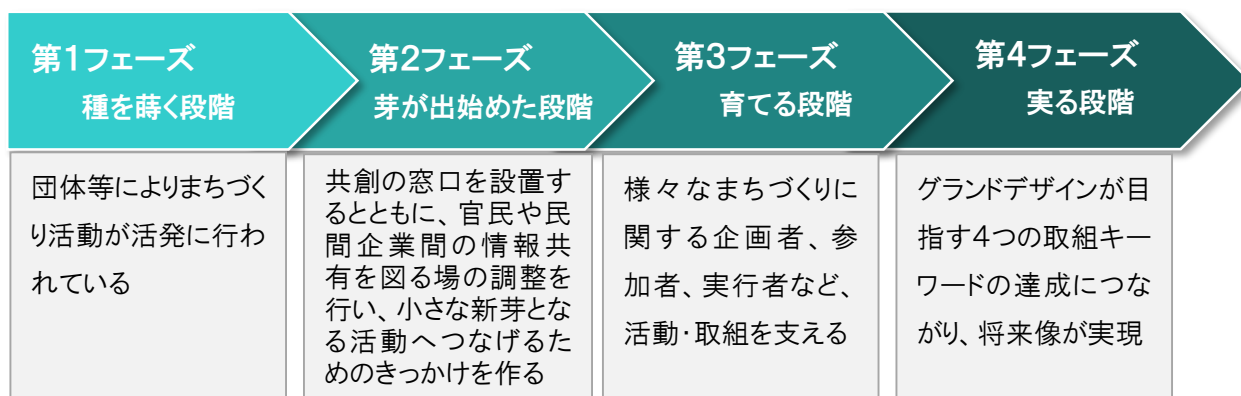


図 官民連携のまちづくりのフェーズ

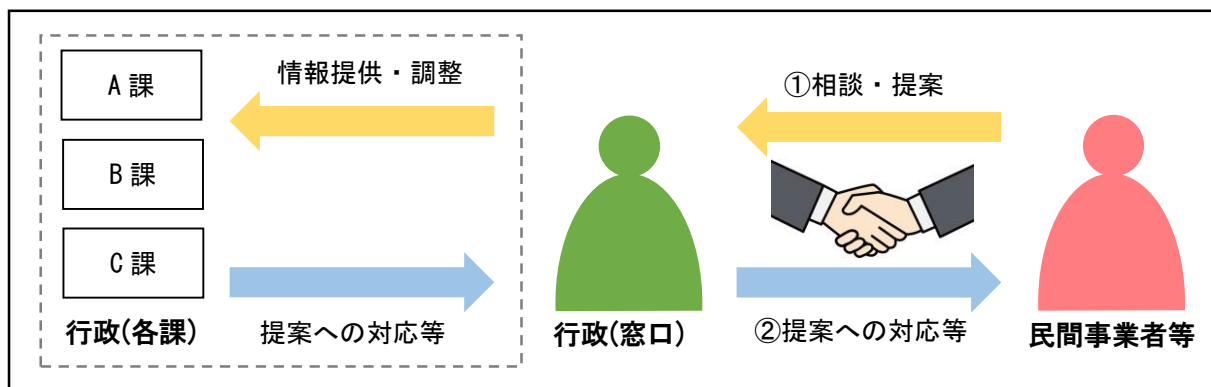
②府中市の魅力を共に創る庁内窓口の設置及び仕組みの構築

グランドデザインの実現に向けて、官民が一体となって府中市の魅力を共に創る必要があることから、まずはグランドデザインが目指す趣旨、方針に賛同する市民・民間事業者等の積極的な活動・取組提案等の支援を行うプラットフォームの構築を目指します。

具体的には、このような「共創のまちづくり」を推進するための庁内窓口を設置し、民間事業者等を受け入れながらまちづくりを推進するための仕組みを検討します。

また、窓口を設置することで、窓口機能（マッチング機能）に加えて、民間提案を受け入れ、実現化を図るための調整機能、事業化支援機能を果たします。その他に、民間事業者等主導による事業の取組やその成果を広く全国へ発信するプロモーション機能のあり方・仕組みを検討します。

■共創の窓口を設置した上で、民間提案に対して官民の共創で取り組む場合



■自治体の地域課題テーマを提示した上で、民間提案を受けて共創で取り組む場合

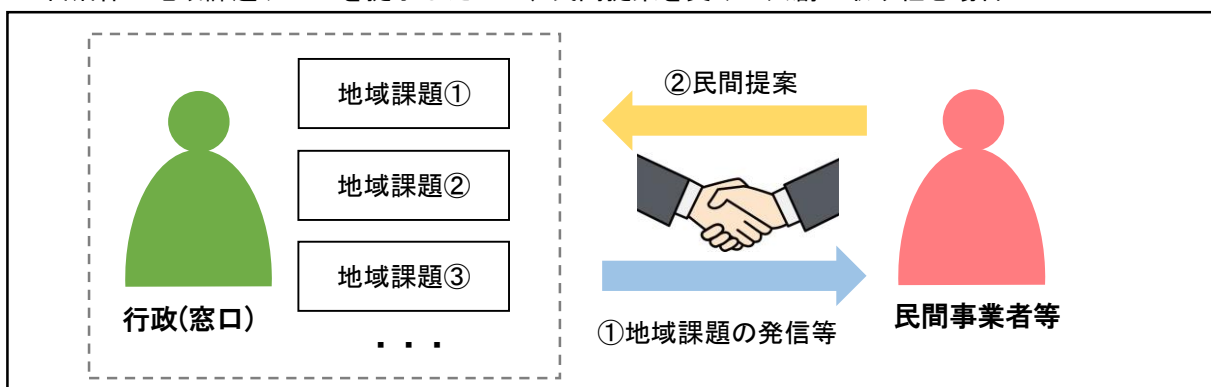


図 共創のまちづくり窓口設置による官民のマッチング

商業施設への施設導入・運営に関して、官民連携により民間のノウハウを活用し、既にリニューアルに向けた取り組みを始めています



■取組の概要

府中駅を中心とした中心市街地の拠点となり、市民の憩いの場となる施設に改修する事業として、若年層と子育て世代をターゲットに、フロア 2 階の一部のリニューアルを進めています。

【事例】 府中天満屋 2 階の活用検討イメージ

③エリアマネジメント推進体制の構築

本市では、グランドデザインの将来像を共有し、個々の取組を具体化したプロジェクトをマネジメントするため、市民、民間事業者、団体等、行政等の官民連携による推進体制を構築します。

今後の都市再生・市街地整備は、都市機能を確保するための開発から、“価値”や“持続性”を高める複合的な更新を図る必要があります。JR 府中駅周辺を中心にした事業実施後のエリアマネジメント活動等の展開を視野に入れた市街地整備を推進する必要があります。

府中市を支える様々な業種・業態から民間事業者の参画と、地域づくりを進める NPO 法人、団体等、自治会等が加わったエリアマネジメント推進組織の設立や自律的な活動を支援するとともに、多様な地域活動との連携を図ります。

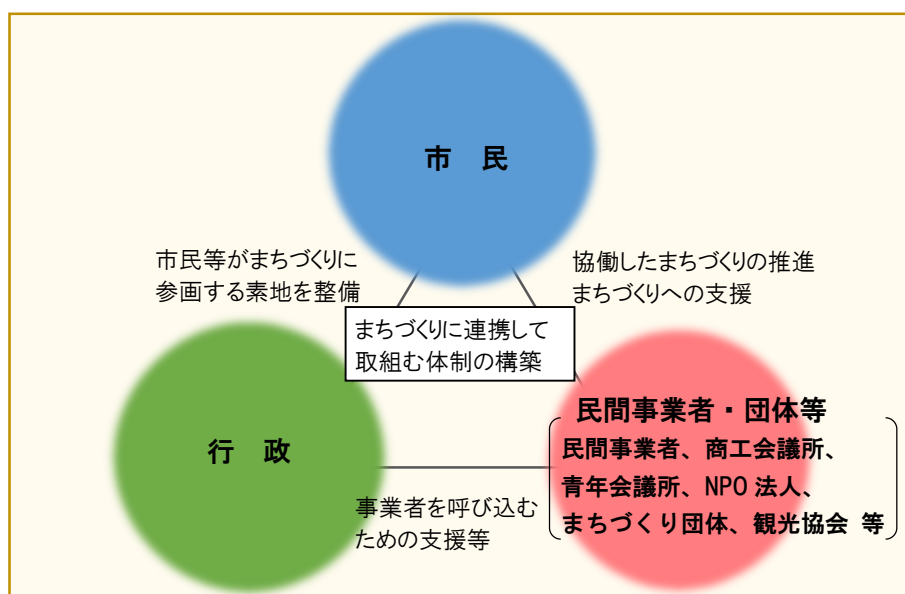


図 エリアマネジメント推進体制の構築（例）

エリアマネジメント推進体制の構築によるグランドデザインの実現に向けた官民の主な役割分担を示します。市民、民間事業者、団体等、行政ともに、担い手の確保・育成を図ることが重要です。

行政は、府中市に民間事業者を呼び込み、参画しやすくなるような環境整備を中心に担うことが求められ、市民、民間事業者、団体等は、保有する技術やノウハウ、知見等を活かして積極的にまちづくりに関わっていくことが求められます。

【官民の主な役割】

民間事業者・市民等

- 地域活動への積極的な参加
- まちづくり活動への参画
- ビルや空き店舗等のコンバージョン・リノベーションの提案
- 低未利用地の活用提案
- 人材を育て活かす
- 情報発信

等

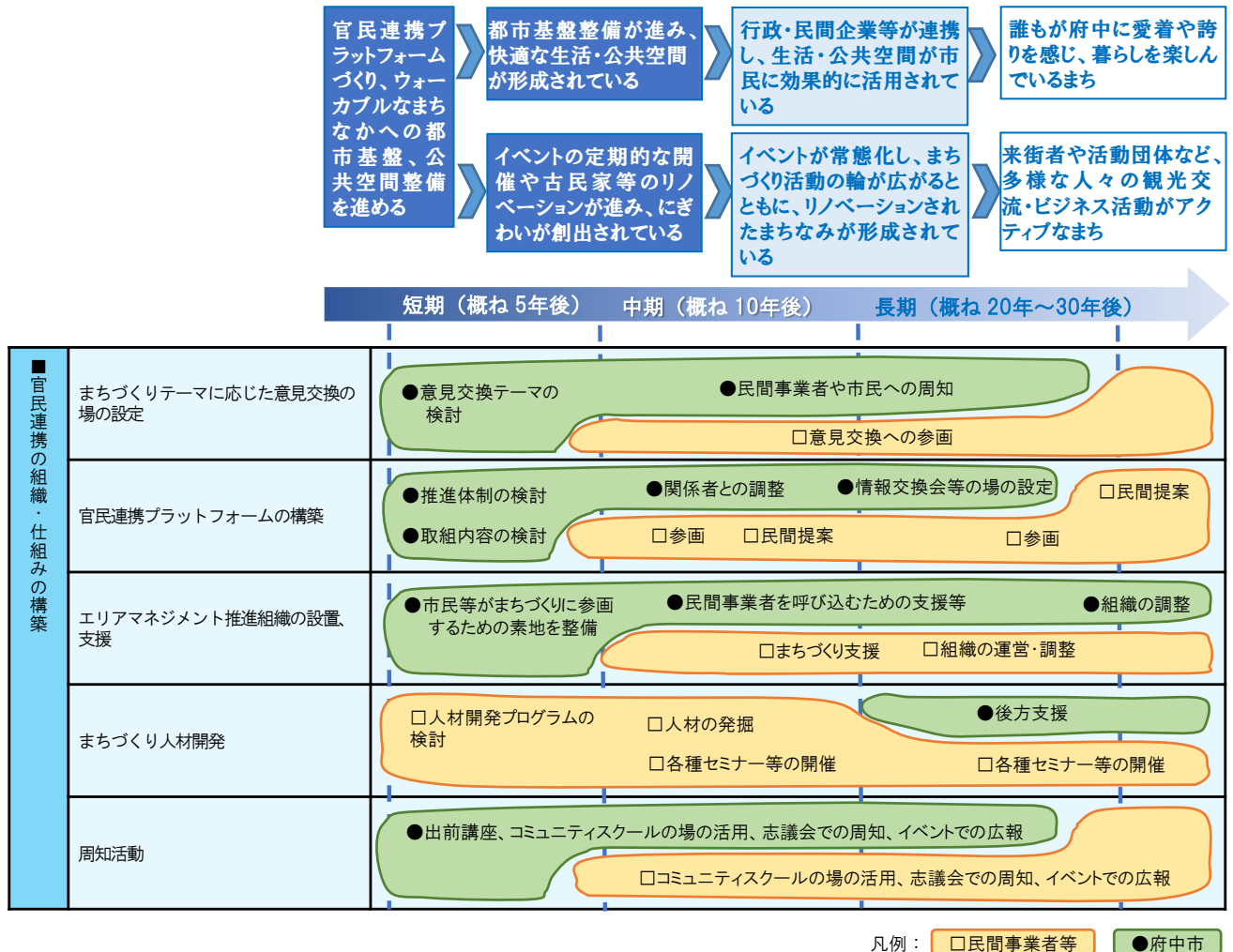
行政

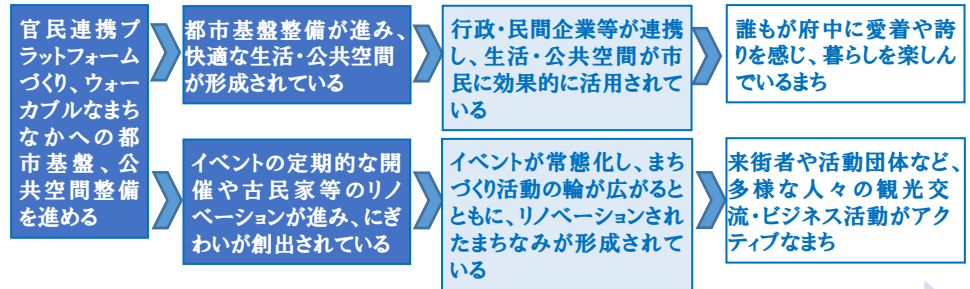
- 道路や公園等の基盤整備
- インパクトのある施策・事業の実施
- 法規制等や各種まちづくりに関するガイドライン等の見直し検討
- 関係機関の調整・コーディネート
- 人材を育て活かす
- 各種勉強会や意見交換会等の場の提供

等

(4) 将来像の実現に向けた取組のロードマップ

グランドデザインの目指すまちの姿を実現するため、市民の暮らしやすさの視点、訪れる人々や受け入れる人々の視点から、各取組の概ねの時期と官民の役割別にロードマップを示します。





		短期（概ね 5年後）	中期（概ね 10年後）	長期（概ね 20年～30年後）
■にぎわいと交流のエリア	ゆとりとくつろぎの広場・空間づくり	●広場等整備 □活用提案・社会実験		
	駅周辺への商業施設・公共施設の集積		●公共施設整備、民間支援 □商業施設集積	
	子育て支援機能や学習・研究・交流機能の導入	●ネウボラ、賑わい拠点整備 □大型店舗リニューアル	□運営、イベント展開	
	JR府中駅のリニューアル	●関係者協議 ●整備構想 □リニューアルに向けた提案	●設計 ●整備	
	空き店舗のリノベーション、空きビル等のコンバージョン		●リノベーション等支援 □リノベーション展開	
	健康増進施設機能の導入	●施設整備	□施設運営	
	図書館及び駅前通りファサード整備	●施設整備 □施設運営		
■子どものMIRRAー創造エリア	水辺や風を感じ、自然と親しむ空間を活用した賑わいづくり	●かわまちづくり計画策定 ●水辺の賑わいづくり、法規制等整備 □河川空間活用		
	アーバンスポーツの充実等を図る、運動・交流機能の導入	●こどもの国公園整備	□運営、イベント展開	
	「にぎわいと交流のエリア」とを連絡する楽しい歩行空間づくり	●POM小路整備	□道路空間活用イベント等の展開	
	トップアスリートと交流できる環境づくり	●プロスポーツチーム等との交流 □イベント等開催		
	空き家等のホテルやカフェ等への転用など、多様な人々の交流・滞在空間の創出	●関係機関調整、支援 □企画、提案 □地元調整 □リノベーション展開		
■多様な人々の交流・滞在によるアクティブエリア	ものづくり工房やアトリエ等の市民に開かれた“ものづくりの場”の展開	●関係機関調整、支援 □企画、提案 □地元調整 □ものづくりの場の展開 □瀬戸内ファクトリービュー等の取組み展開		
	回遊性を高める歩行者空間のウォールアート化や空き店舗等を活用した市民アートギャラリー化の推進	●アーティストインレジデンス事業 ●滞在所の検討	□まちなかアートの展開	
	まちなみの風情を活かした空き家等の柔軟な利活用・リノベーション支援	●町並みリノベーション方針検討 ●地元調整、修景支援	□リノベーション展開	
	歩いて楽しい歩行空間づくり	●ウォーカブル区域構想、法規制等整備、公共空間整備	□空間活用提案、イベント等展開	
	歴史の掘り起こし	□●調査、発掘、研究、活用、大学等との連携		
■歴史・文化的記憶の継承エリア	歴史・文化学習の場としての整備・開放	●史跡広場整備、史跡開放 ●拠点施設整備、施設活用	□●史跡活用、学習イベント展開	
	歴史・文化散策ルートの整備	●ルート選定、整備 □地域ガイド、旅行会社連携		
	市民活動の組織化	□●歴史文化研究会の組織化		

凡例： □民間事業者等 ●府中市

5. 2 検証・見直し

本章で示すマネジメントシステムについて、評価・検証を繰り返しながら、第1章で示す「目的から導く4つのキーワード」を念頭に置いた将来像の着実な実現を図ります。

本計画では、将来像の実現に向け、必要に応じて適宜、計画内容の見直し・変更を行うものとします。

また、計画の実効性を高めるため、PDCA サイクル（Plan（計画）－Do（実施）－Check（検証）－Action（改善））により、官民が一体となって将来像やエリアコンセプトの実現に向けた達成度の検証、必要に応じて計画・施策内容の見直し・改善を行い、効果的・効率的な施策の実現を目指します。

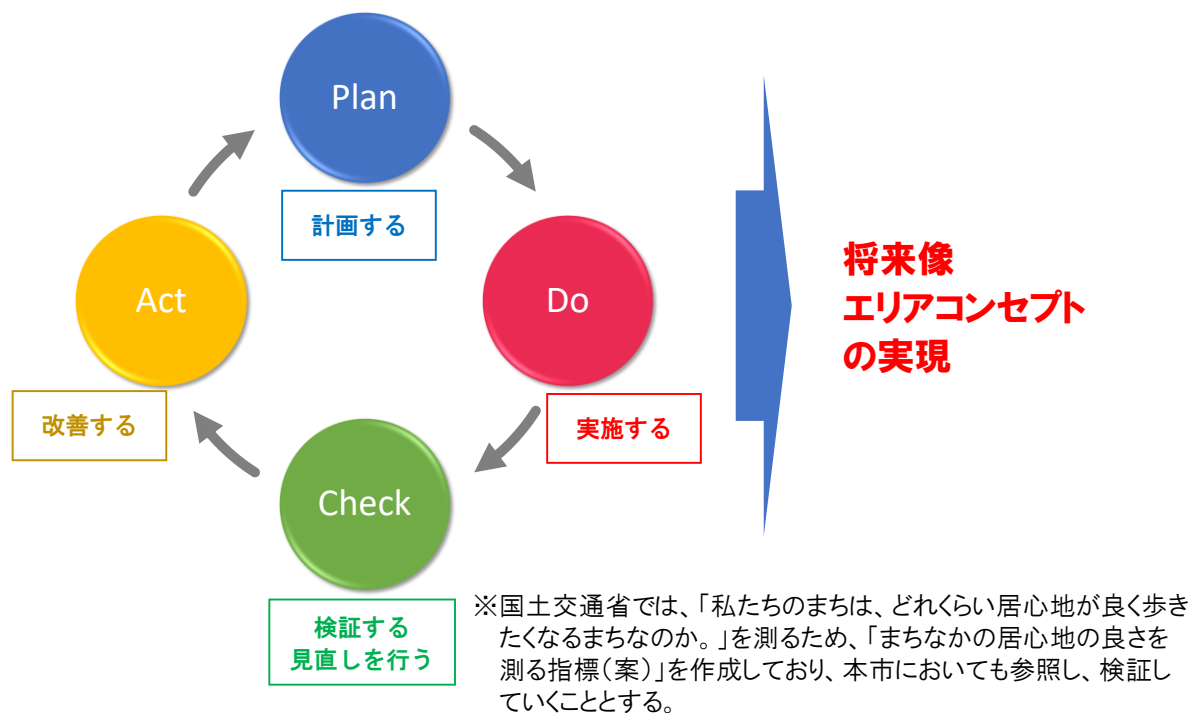


図 PDCA サイクルによる計画の検証・見直し方針の概念

	娘(20代)	「将来に向かって、様々な立場の人が協力しあうことで、まちづくりは進んでいくんだね。私も色々考えるきっかけになったわ。」
	父(50代)	「そうだな、市民としても企業人としても頑張らないといけないな。」
	母(40代)	「この10年、20年で大きくまちが変わろうとしてるわね。お母さんでもできることはやっていこうっと！」
	息子(高校生)	「グランドデザインで目指すべき将来像もわかったし、多くの人が関わることで、素晴らしいまちになっていきそうな予感がする。俺も自分にできることから始めていこうっと！」

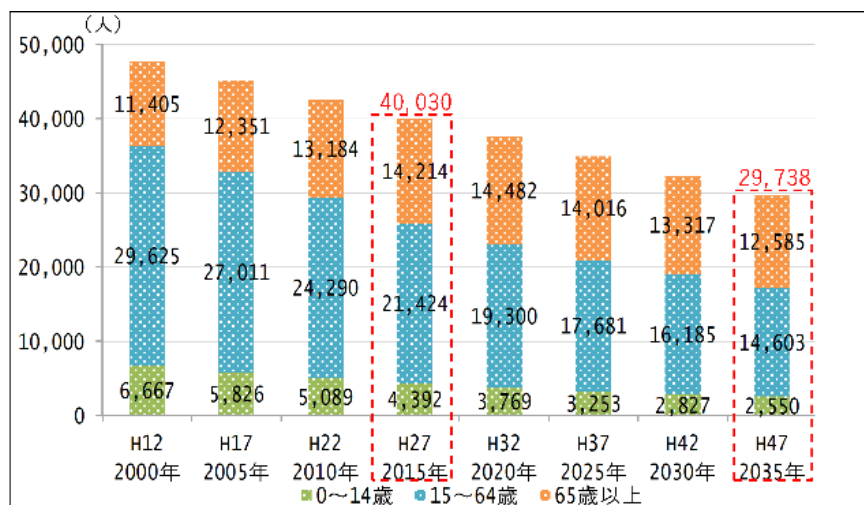
参考資料

参考 1. 統計からみる府中市

1) 人口

府中市全体の人口は減少を続けており、今後 20 年間で 25.7%減となる見込みとなっている（平成 47 年-平成 27 年比）。また、これまで高齢者の人口だけは増加していたが、平成 32 年以降はすべての年代で人口減少が進むと予測されている。

年齢三区分別推計人口



出典：国勢調査（平成 22 年）、国立社会保障・人口問題研究所（平成 25 年 3 月推計）より
※平成 12 年（2000 年）は、旧府中市と旧上下町を合算した値

2) 製造品出荷額等

昭和 50 年を基準として、工業の推移をみると、製造品出荷額等は平成 2 年をピークに以降減少経過が続いている。事業所や従業者数は減少傾向が続いており、平成 25 年には、昭和 50 年の半数以下となっている。

工業の推移

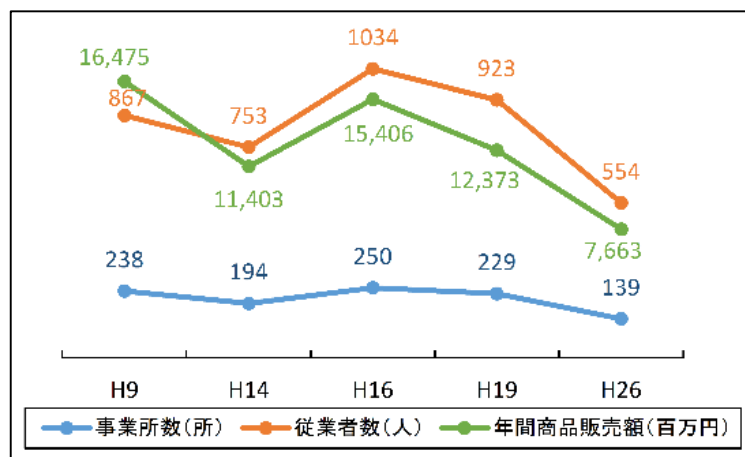


出典：工業統計調査

3) 商品販売額等

中心市街地における小売業の状況は平成 16 年以降、減少傾向が続いている。事業所数や従業者数、年間商品販売額は平成 16 年と比べ、平成 26 年では半減しており、商業の衰退が懸念されている。

商業の推移

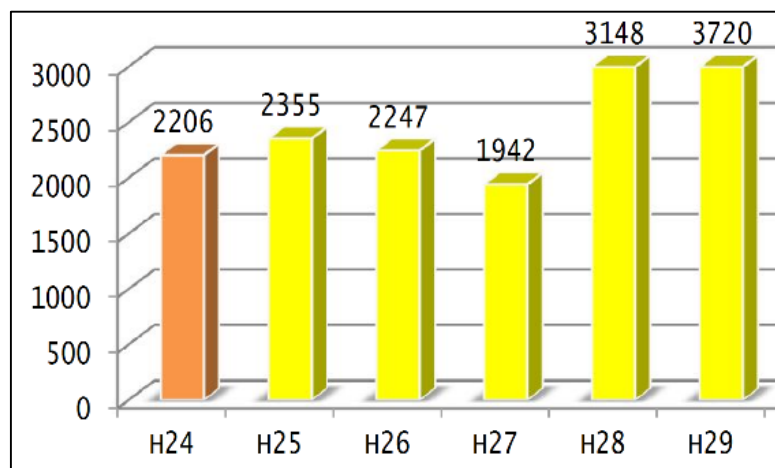


出典：商業統計調査

4) 中心市街地歩行者数

中心市街地の歩行者数は平成 24 年以降増加している。特に平成 28 年の道の駅整備後には歩行者数が大きく増加している。

中心市街地歩行者数の推移



出典：中心市街地活性化計画フォローアップ報告書

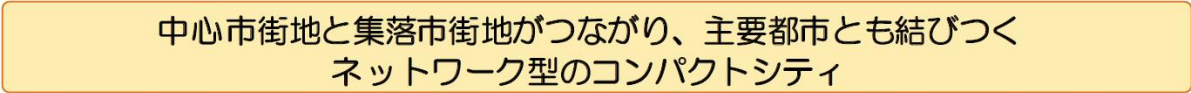
参考 2. これまでの都市再生の総括

本市では、これまでも中心市街地等において都市再生に関する施策・取組を行ってきた。本項では、将来のグランドデザインを描くため、これまでの都市再生において、どのような成果をあげ、どのような課題があったのかについて、以下のとおり総括する。

■ 中心市街地等におけるまちづくりに関するこれまでの主な取組み

平成 14 年	都市計画審議会答申 「府中市の新たなまちづくりのために」	コンパクトな まちづくりへ の転換	
平成 15 年	都市計画マスタープラン改定 (第 1 回見直し)		
平成 16 年		都市再生整備計画 (第 1 期) 平成 16~20 年度	
平成 19 年	中心市街地活性化基本計画 (第 1 期) 平成 19~23 年度		
平成 20 年	都市計画審議会答申 「これからの人口減少時代に対応し次の 世代も活力に溢れたまちであるために」		
平成 25 年	中心市街地活性化基本計画 (第 2 期) 平成 25~29 年度	都市再生整備計画 (第 2 期) 平成 25~29 年度	
平成 26 年	都市計画マスタープラン改定 (第 2 回見直し)		
平成 29 年	立地適正化計画策定		

府中市の目指す将来都市構造



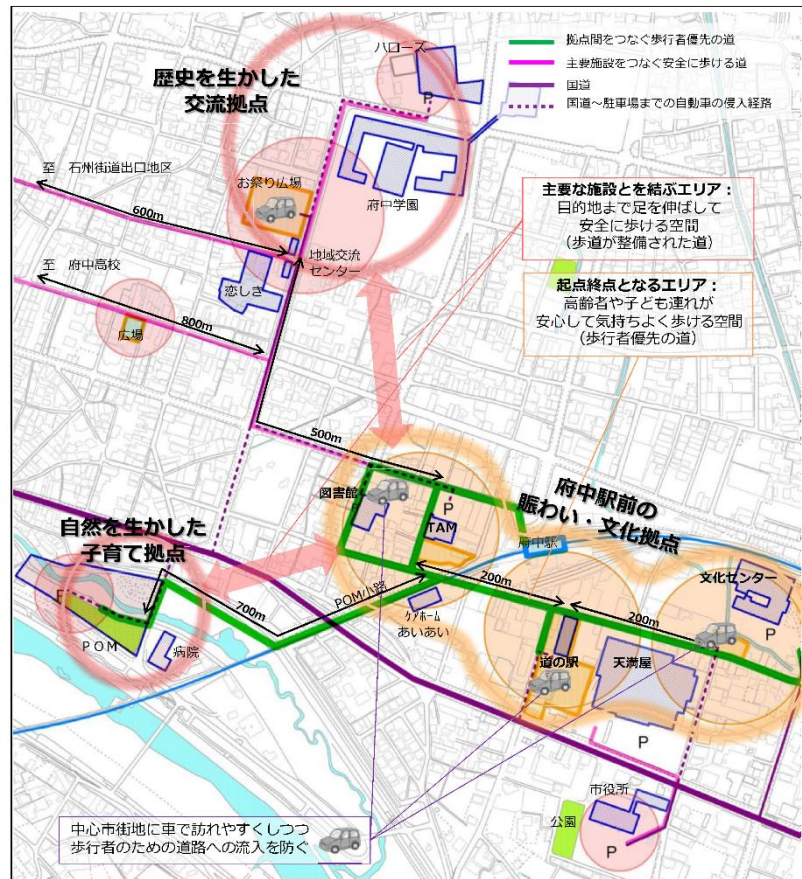
※資料：府中市都市計画マスタープラン

(2) 整備方針

①生活中心街の形成

- 53

○高齢者に加え子育て世帯や女性も過ごしやすい生活中心街の考え方



※資料：府中市都市計画マスタープラン

■府中市立地適正化計画

居住誘導区域：

「住みたい」「住み続けたい」と選ばれる、住・農・工

が調和したゆとりある市街地をつくっていきます

■区域の設定の目的

目標1 居住地として積極的に選ばれる市街地を形成し、市外への人口流出を食い止めています

交通利便性が高く、生活利便施設にも近い「基本市街地」を中心に魅力的な住環境をつくっていくことで、現状では住宅の購入などをきっかけとして府中市から近隣市町へ転出してしまっている若い世帯を、今後は府中市内に引き止めています。

また、働く場所があることを府中市の強みとして、近隣市町に住み府中市に通勤している世帯に対しても、職住近接の住環境を提供していきます。

＜誘導方針＞

① 都市計画道路の継続整備



➢ 都市計画道路整備の継続

② 建物の更新とあわせた道路基盤の整備



➢ 狭い道路整備事業
➢ 地区計画の活用 など

③ 農地等を生かした緑豊かな住環境整備



➢ 農地を生かした住宅等の検討・調査 など

目標2 車を利用しなくても暮らせる住環境を確保していきます

府中市では、日常生活において自家用車を多く利用していますが、高齢になると共に車の運転が困難となり、公共交通に頼らざるをえない場合が出てきます。

府中市の中でも特に生活利便施設が集まっていて、交通の結節点でもある府中駅周辺において、車を運転できない人でも安心して便利に暮らせる環境を形成していきます。

＜誘導方針＞

① 歩いて暮らせる質の高い空間整備の継続



➢ 中心市街地活性化基本計画など

② 空き家の活用及び跡地利用による憩いの場の創出



➢ 空き家に関する補助制度の活用
➢ 空き家バンクの活用 など

■居住誘導区域内への積極的な居住を誘導するターゲット

近隣市町へ転出してしまっている若い世帯を引き止める

住宅購入等を契機として近隣市町からの転入者を受け入れる

府中市で働き近隣市町に住んでいる世帯を呼び込む

■居住誘導区域

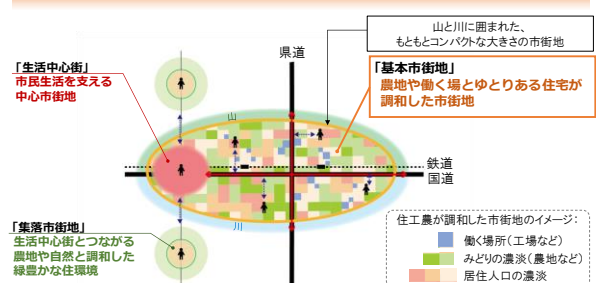


目標1：
居住地として積極的に選ばれる市街地を形成し、市外への人口流出を食い止める

目標2：
車を利用しなくても暮らせる住環境を確保する

■目標とする居住誘導区域内の密度イメージ

農地や工場などの特色ある機能に彩られた、ゆとりある住環境



都市機能誘導区域：

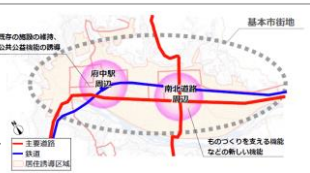
市民の生活を支える中心拠点を維持するとともに、

ものづくりのまち・府中の顔をつくっていきます

都市機能を誘導していく「2つの核」

・府中市では、公共公益機能、ものづくりを支える機能をそれぞれ誘導していくことで、右図のような2核を形成していくことを目指しています。

・今回の立地適正化計画の策定では、まず、これまで取り組んできた「歩いて暮らせるまちづくり」を引き続き推進する地域として、目標1の実現を目的に都市機能誘導区域を設定します。



■区域の設定の目的

目標1 府中駅周辺に都市機能の集積を維持・促進し、生活の中心拠点を形成していきます

府中駅周辺は公共公益施設が集積しており、引き続き市全体の生活を支える拠点としての利便性を維持していきます。

また、現在府中駅周辺では広場等の交流機能の整備を進めており、今後は市内外から人が集まる賑わいある場所としていくための新たな機能などの立地を検討していきます。

＜誘導方針＞

① 府中駅周辺の都市機能の維持



② 新しい機能等の誘導

➢ 中心市街地活性化基本計画
➢ 必要な機能の具体化検討 など

③ 歴史文化を生かした観光機能の強化



➢ 街並み環境整備事業
➢ 備後国府跡の整備 など

目標2 産業軸として整備している南北道路の沿道でものづくりのまちの顔となる場所をつくっていきます

＜誘導方針＞

① 南北道路の継続整備



➢ 都市計画道路整備の継続

② 南北道路沿道への産業・商業機能等の集積



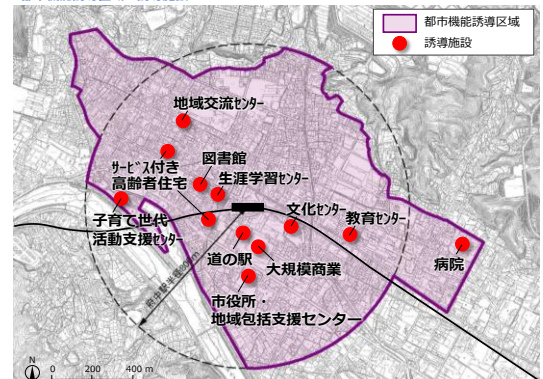
➢ 誘導する機能の具体化検討
➢ 用途地域の変更 など

■誘導施設

都市機能誘導区域外への散逸を防ぎ、集約的な立地を進めていく機能を「誘導施設」として定めます。市全体の生活を支える生活利便機能や、また府中駅周辺を魅力ある地域としていくための交流機能などを誘導施設とすることで、府中駅周辺での既存の都市機能の維持と交流人口の増加を図っていきます。

分野	誘導施設	備考
医療	病院	
福祉	地域包括支援センター サービス付き高齢者住宅	
子育て	子育て世代活動支援センター	
文化	図書館 生涯学習センター 文化センター 地域交流センター 歴史民俗資料館※	※将来の誘導を検討
商業	商業施設（床面積 10,000㎡以上） 道の駅 健康増進施設※	※新規誘導を検討
行政	市役所 教育センター	

■都市機能誘導区域・誘導施設



■都市再生整備計画（中心市街地活性化基本計画）の事業・取組

【第1期計画】

■計画期間：平成16～平成20年度

■目標課題：

【中心市街地の賑わいの再生】

【地域の防災性・安全性の向上・安心して歩ける歩行者空間の確保】

【歴史的資源を活用した魅力の向上】



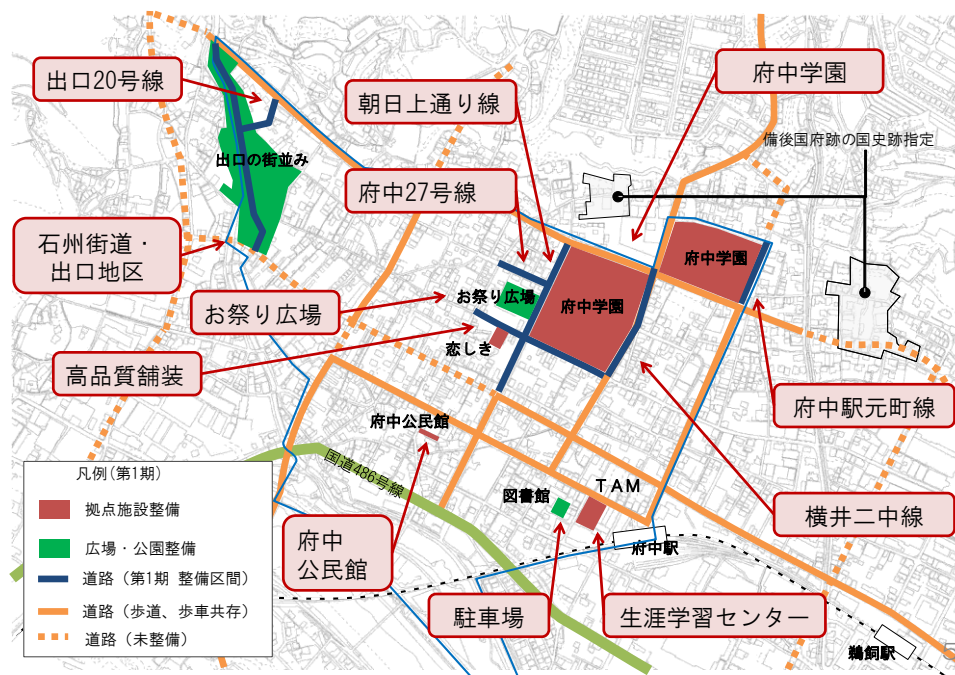
【石州街道・出口地区】

・街並み環境整備事業
による修景整備

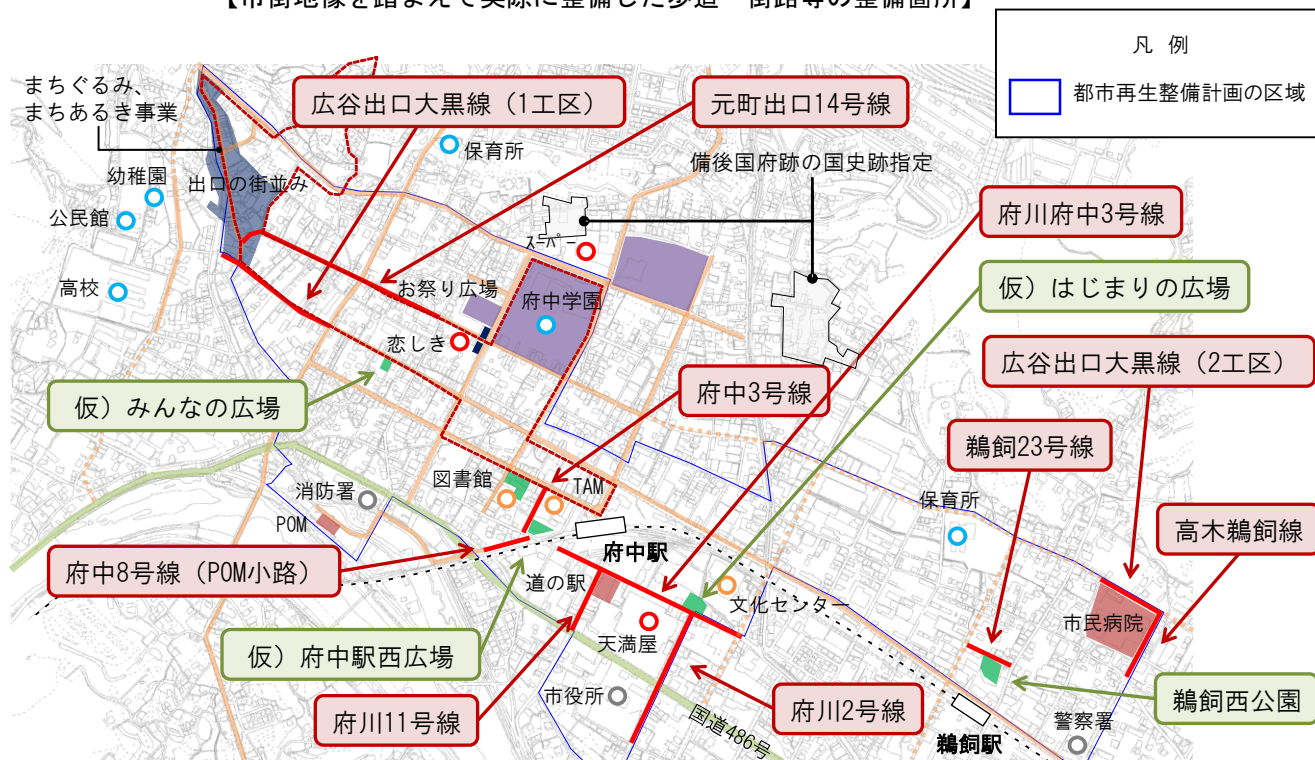


【お祭り広場】

・市民・来街者の交流拠点整備



【市街地像を踏まえて実際に整備した歩道・街路等の整備箇所】



【第2期計画】

■計画期間：平成 25～平成 29 年度

■目 標：

【市民や来街者が集い、交流する魅力ある中心市街地の形成】

【安心して便利に歩いて暮らせる中心市街地の形成】

【市民の生活と交流を支える基盤の形成】

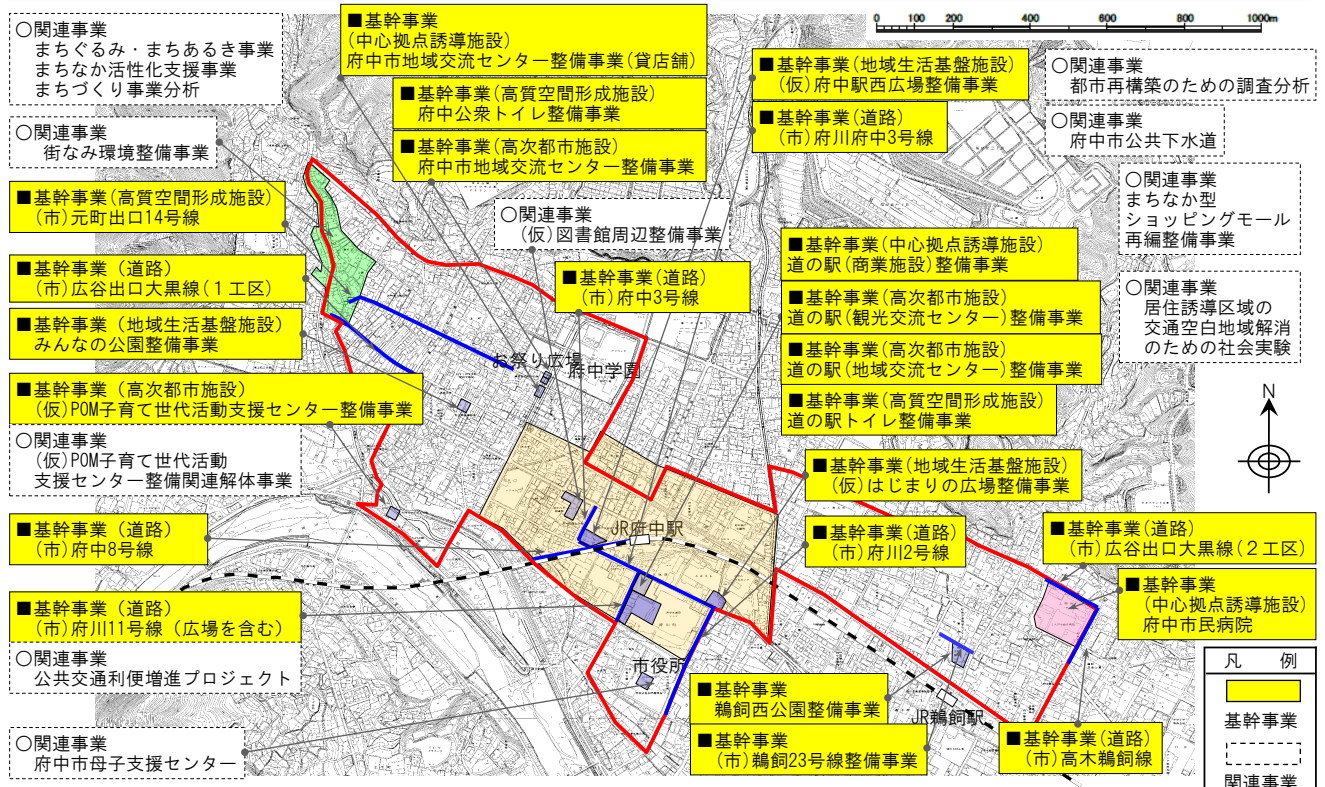
■課 題：

【高齢化社会への対応】

【生活拠点機能の維持の必要性】

【都市の魅力の創出】

【地域医療の再生】



【道の駅整備】



【こどもの国の整備】



【府中市地域交流センターの整備】



【はじまりの広場の整備】

古代山陽道分岐点を
イメージした整備



【府中8号線(POM小路)整備】



【府中11号線(広場含む)整備】



【府中学園整備】

参考3. 策定の経緯

2018(平成30)年11月 ～2019(平成31)年3月		ふちゅうリノベーションプロジェクト(全7回)
2019(令和元)年	6月21日(金)	第1回府中市庁内プロジェクトチーム
	7月23日(火)	第2回府中市庁内プロジェクトチーム
	8月28日(水)	第3回府中市庁内プロジェクトチーム
	8月30日(金)	第1回府中市グランドデザイン策定協議会
	9月26日(木)	第4回府中市庁内プロジェクトチーム
	9月29日(日)	第1回ふちゅう井戸端会議(ワークショップ)
	10月5日(土)	第2回ふちゅう井戸端会議(ワークショップ)
	10月23日(水)	第2回府中市グランドデザイン策定協議会
	11月10日(日)	第3回ふちゅう井戸端会議(ワークショップ)
	12月24日(火)	第3回府中市グランドデザイン策定協議会
2020(令和2)年	1月10日(金)	第5回府中市庁内プロジェクトチーム
	2月10日(月)	第6回府中市庁内プロジェクトチーム
	2月26日(水)	第4回府中市グランドデザイン策定協議会
	3月27日(金)	第7回府中市庁内プロジェクトチーム
	4月21日(火)	第8回府中市庁内プロジェクトチーム
	6月19日(金)	第5回府中市グランドデザイン策定協議会
	7月6日(月)～ 8月6日(木)	パブリックコメント実施期間(1ヶ月間)
	7月28日(火)	第9回府中市庁内プロジェクトチーム
	8月21日(金)	第6回府中市グランドデザイン策定協議会
	10月1日(木)	策定・公表



【ふちゅうリノベーションプロジェクトの様子】



【第1回グランドデザイン策定協議会の様子】

参考 4. 府中市グランドデザイン策定協議会要綱

府中市告示第 40 号

府中市グランドデザイン策定協議会設置要綱を次のように定める。

令和元年 7 月 26 日

府中市長 小 野 申 人

府中市グランドデザイン策定協議会設置要綱

(設置)

第 1 条 府中市グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）の策定にあたり、幅広く意見を聴取し、実行性のある計画とするため、産学官民で構成する府中市グランドデザイン策定協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 協議会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) グランドデザインの策定に関する提案及び助言
- (2) その他グランドデザインの策定に関し必要な事項

(委員)

第 3 条 委員は、次に掲げる者で構成する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係団体及び関係機関に属する者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、所掌事務が終了するまでの期間とする。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、市長が招集する。

2 協議会の会議は、公開とする。ただし、市長が必要と認めるときは非公開とすることができる。

3 市長が、協議会において必要に応じて関係者に資料の提出を求め、又は参考人の出席を求め、その説明若しくは意見を聴取することができる。

(座長)

第 7 条 協議会に座長を置くものとし、委員のうちから市長が指名する。

2 座長は、協議会の会議を進行する。

3 座長に事故があるときは、市長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(庶務)

第 8 条 協議会の庶務は、建設部都市デザイン課において処理する。

(報酬等)

第 9 条 委員の報酬等は、府中市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和 31 年府中市条例第 30 号）により支給する。

(その他)

第 10 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

参考 5. 策定体制

■府中市グランドデザイン策定協議会

区 分	氏 名	所 属
座 長	渡邊 一成	福山市立大学都市経営学部教授
座 長 代 理	岡辺 重雄	福山市立大学都市経営学部教授
委 員	岡崎 浩二	府中商工会議所副会頭
委 員	水主川 緑	NPO法人府中ノアンテナ代表理事
委 員	加藤 謙	広島県立歴史博物館歴史博物館アドバイザー
委 員	久保 聡志	西日本旅客鉄道株式会社岡山支社企画課長
委 員	河野 吉輝 (小林 周)	独立行政法人都市再生機構西日本支社 中国まちづくり支援事務所 業務企画課長 (同、まちづくり支援課長)
委 員	小山 文人	株式会社広島銀行府中支店支店長
委 員	高橋 良昌	府中市観光協会会長
委 員	寺延 匡昭	株式会社ワラビーデザイン代表取締役
委 員	藤田 盟児	奈良女子大学生生活環境学部教授
委 員	藤田 佳浩 (河内 優)	株式会社もみじ銀行府中支店支店長
委 員	真部 保良	株式会社グローカルメディア代表取締役
委 員	村上 明雄	府中市副市長
委 員	守屋 綾子	元府中市地域おこし協力隊

※ 委員は 50 音順。敬称略。所属・職名は第 6 回府中市グランドデザイン策定協議会開催時点（令和 2 年（2020 年）8 月 21 日）のものでカッコ内は、旧任を示す。

■策定支援 復建調査設計株式会社

■事 務 局 都市デザイン課（都市計画係）

あ行

【アーティストインレジデンス】

国内外の芸術家等が一定期間滞在し、様々な交流を通して創作活動等に有益となるプログラムを提供する事業のこと。

【ICT】

Information and Communication Technology の略称。情報通信技術の総称。

【IT】

Information Technology の略。「情報技術」＝コンピューター・インターネット・携帯電話などを使う、情報処理や通信に関する技術を総合的に指している語のこと。

【ウォーカブル】

国土交通省の「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」にて、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、イノベーションと人中心の豊かな生活を実現するべきとの提言がなされ、ウォーカブルな都市である「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成していくことが謳われた。ここでいうウォーカブルは、“歩きたくなる”ということを指す。

【AR】

Augmented Reality の略。「拡張現実」＝実世界から得られる知覚情報に、コンピューターで情報を補足したり、センサーによる情報を加えて強調したりする技術の総称。専用のゴーグルや機器などを通して見た現実の風景に、電子情報を重ね合わせて表示するもの。

【エリアマネジメント】

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組と定義される。

快適で魅力的な環境の創出や美しい街並みの形成による資産価値の保全・増進等に加えて、ブランド力の形成や安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティ形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含む。

か行

【かわまちづくり】

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組のこと。

【共創】

異なる立場や業種の人・団体が協力して、新たな商品・サービスや価値観などをつくり出すこと。

【コミュニティバス】

交通空白地域・不便地域の解消等を図るため、市町村等が主体的に計画し、以下の方法により運行するものをいう。

- (1) 一般乗合旅客自動車運送事業者に委託して運送を行う乗合バス（乗車定員 11 人未満の車両を用いる「乗合タクシー」を含む。）
- (2) 市町村自らが自家用有償旅客運送者の登録を受けて行う市町村運営有償運送

【コワーキングスペース】

事務所スペース、会議スペース等を共有しながら独立した仕事をするができるスペースのこと。

【コンバージョン】

建築用語のコンバージョンは、建物の用途を変更し再利用することを指す。

さ行

【瀬戸内ファクトリービュー】

広島県南東部の備後地方にある府中市と福山市で開催するオープンファクトリーイベントのこと。地元産業の 1 つである木工・家具を中心に繊維や鉄鋼、味噌なども含めた多様で特色あるものづくりの現場を見学、体験することができる。

た行

【デマンド交通】

大まかな概念として、定時・定路線のバス運行に対して、電話予約など利用者のニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一つの形態のこと。

【テレワーク】

情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。

な行

【ネウボラ】

妊娠から出産まで、さらに子供が生まれた後も基本的には 6 歳まで切れ目なく育児に対するサポートを提供する総合的な支援サービス。

は行

【ファサード】

建築物の正面。ヨーロッパ建築で重要視され、正面と同程度の装飾がほどこされている場合には、側面についてもいう。

【VR】

Virtual Reality の略。コンピューターによって作り出された仮想現実のこと。

【プラットフォーム】

駅の「プラットフォーム」にさまざまな人が乗っているように、近年では、上部のさまざまなものを下から広く支えるグループや機能を指す用語のことをいう。

や行

【ワーケーション】

「ワーク」（仕事）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、「働きながら休暇を取る」こと。

府中市グランドデザイン

発行日 令和 2 年（2020 年）10 月
発行・編集 府中市建設部都市デザイン課
〒726-8601
広島県府中市府川町 315 番地
印刷 有限会社 コトブキ印刷